

コ・フェスタ2023 実施報告書



CoFesta

2023

令和6年3月
特定非営利活動法人映像産業振興機構

目次

1 基本情報	
i はじめに (委員長挨拶)	2
ii 事業概要 (事業目的・実施体制・運営組織)	3
実行委員一覧	4
iii イベント一覧	5
iv 百人委員会 企業一覧	6
2 コ・フェスタ実行委員会	7
3 プロモーション 広報制作物	8
4 イベント報告	
i コアイベント	9
ii オフィシャルイベント	19
iii パートナーイベント	36

- ・ 氏名は敬称略を基本とします。
 - ・ 株式会社、有限会社、合同会社、独立行政法人は、それぞれ(株)、(有)、(同)、(独)と略すことを基本とします。
 - ・ 一般社団法人、公益社団法人、一般財団法人、公益財団法人、特定非営利活動法人は、それぞれ (一社)、(公社)、(一財)、(公財)、(特非)と略すことを基本とします。
 - ・ 国立研究開発法人、協同組合は、それぞれ (国研)、(協組)と略すことを基本とします。

1 基本情報

1-i はじめに



コ・フェスタ実施報告書発行にあたり

コ・フェスタ 2023 実行委員長 迫本 淳一

皆様方におかれましては、「コ・フェスタ 2023」の開催に際しまして、多大なるご支援、ご協力を賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。

コ・フェスタは、日本が世界に誇るゲーム、アニメ、マンガ、キャラクター、放送、音楽、映画といったコンテンツ産業およびファッション、デザイン等コンテンツと親和性の高い産業に関わる各種イベントを統合的に海外に発信するための、海外発信力強化支援プロジェクトです。2007年から開催されて17年目を迎えた2023年度は、31のイベントがコ・フェスタに認定され、国内外から広く多くの方にご参加いただくとともに、業界の垣根を越えた交流やビジネス展開を促進いたしました。

日本国内のコンテンツ産業の市場規模はプラス成長を遂げています。この成長はデジタルコンテンツの普及やエンターテインメント分野の発展によるものであり、コンテンツ産業がますます重要な役割をはたしていることを示しています。世界的にも「ポストコロナ」時代となり、世界のコンテンツ市場の拡大が見込まれる中で、日本のコンテンツ産業がさらなる成長を遂げるためには、コンテンツIPを中心としたビジネスモデルの構築や海外展開の戦略が重要になります。

本年度のコ・フェスタ 2023のイベントではリアル開催が完全復活し、参加者同士の直接交流によって情報発信がなされ、新たなファン層の獲得にも繋がったと思います。コ・フェスタでは横の連携を強調し、17年間で培ったコンテンツ業界としての一体感と海外への発信力を一段と高めるべく、邁進して参ります。

ここに、関係各位のご協力のもと、コ・フェスタ 2023の実施報告書がまとまりましたので、ご一読いただければ幸いです。

最後になりましたが、コ・フェスタ 2023にご参加いただきましたコアイベント、オフィシャルイベント、パートナーイベントの主催者・後援者、また百人委員会各企業様および関係者の皆様方の多大なるご協力に重ねて御礼申し上げます。

1-ii 事業概要

■事業目的

日本のアニメ、マンガ、映画、音楽等のコンテンツは、クールジャパンを代表する要素であり、今後も更なる成長分野として期待されている。この成長を継続し、発展させていくためには、コンテンツの海外展開を通じた市場を拡大するとともに、コンテンツを主軸としたオープンイノベーションを促進し、関連産業への波及を生み出していくことが重要である。このような観点から、本事業では、日本コンテンツに係るイベントのネットワーク構築を行い、コンテンツを主軸としたオープンイノベーションの在り方等を検討し、国内外に向けて情報発信することで、日本コンテンツの市場拡大につなげることを目的とする。

■実施体制

本事業は特定非営利活動法人映像産業振興機構（VIPO）が経済産業省から受託した「令和5年度コンテンツ海外展開促進事業（コンテンツ関連ビジネスマッチング事業）」の一環である。特定非営利活動法人映像産業振興機構がコ・フェスタ実行委員会、コ・フェスタ実行本部を設置し、本事業の検討と運営を行なった。

●コ・フェスタとは

コ・フェスタ（JAPAN国際コンテンツフェスティバル）とは、日本が誇るゲーム、アニメ、マンガ、キャラクター、放送、音楽、映画といったコンテンツ産業およびファッション、デザイン等コンテンツと親和性の高い産業に関わる各種イベントを効果的に海外に発信するための、海外発信力強化支援プロジェクトである。

名称：コ・フェスタ（JAPAN国際コンテンツフェスティバル）2023

主催：コ・フェスタ（JAPAN国際コンテンツフェスティバル）実行委員会

開催場所：日本各地および海外

2023年度参加イベント：国内外31イベント

●取組内容

・イベント連携

イベント間の協力体制の促進のためコ・フェスタ実行委員会を実施し、各イベント主催者間やコンテンツ産業と他産業との連携のための情報共有等を図った。

■運営組織

●実行委員会 コンテンツ系各業界および関係省庁、関係団体からの委員で構成する。

●実行本部 実行委員会の方針のもとに、事業の運営、統括を実施する。



副委員長 依田 巽



副委員長 重延 浩



副委員長 松谷 孝征

【委員長】

迫本 淳一	さこもとじゅんいち	松竹株式会社 代表取締役会長 会長執行役員
-------	-----------	-----------------------

【副委員長】

依田 巽	よだたつみ	一般社団法人 日本経済団体連合会 幹事 (ギャガ株式会社 代表取締役社長 CEO)
重延 浩	しげのぶゆたか	株式会社テレビマンユニオン 会長 ゼネラルディレクター 取締役
松谷 孝征	まつたにたかゆき	特定非営利活動法人 映像産業振興機構 理事長 (株式会社手塚プロダクション 代表取締役社長)

【委員】

信谷 和重	のぶたにかずしげ	独立行政法人 日本貿易振興機構 (ジェトロ) 副理事長
市原 健介	いちばらけんすけ	一般財団法人 デジタルコンテンツ協会 専務理事
山下 直久	やましたなおひさ	株式会社KADOKAWA 取締役 代表執行役
稲葉 延雄	いなばのぶお	日本放送協会 会長
遠藤龍之介	えんどうりゅうのすけ	一般社団法人 日本民間放送連盟 会長
島谷 能成	しまたによししげ	一般社団法人 日本映画製作者連盟 代表理事 (会長)
村松 俊亮	むらまつしゅんすけ	一般社団法人 日本レコード協会 会長
野間 省伸	のまよしのぶ	株式会社講談社 代表取締役社長
辻本 春弘	つじもと はるひろ	一般社団法人 コンピュータエンターテインメント協会 会長
安藤 裕康	あんどうひろやす	公益財団法人ユニジャパン 理事/ 第36回東京国際映画祭 チェアマン
三宅 正彦	みやけまさひこ	一般社団法人 日本ファッション・ウィーク推進機構 理事長
矢内 廣	やないひろし	ぴあ株式会社 代表取締役社長

佐野究一郎	さのきゅういちろう	内閣府 知的財産戦略推進事務局 次長
-------	-----------	--------------------

山碕 良志	やまざきりょうじ	総務省 情報流通行政局 官房審議官 (情報流通行政局担当)
-------	----------	----------------------------------

金井 正彰	かないまさあき	外務省 大臣官房 (外務報道官・広報文化組織) 国際文化交流審議官
-------	---------	--------------------------------------

中原 裕彦	なかはらひろひこ	文化庁 内閣官房内閣審議官 (文部科学戦略官・文化戦略官)
-------	----------	----------------------------------

牛山 智弘	うしやまともひろ	経済産業省 大臣官房 商務情報政策局審議官 (IT戦略担当)
-------	----------	-----------------------------------

星野 光明	ほしのみつあき	国土交通省観光庁 国際観光部 部長
-------	---------	-------------------

向井 一弘	むかいかずひろ	東京都 産業労働局観光部 部長
-------	---------	-----------------

【監事】

島岡 唯信	しまおかただのぶ	一般社団法人 日本映画テレビ技術協会 専務理事
-------	----------	-------------------------

福浦 与一	ふくうらよいち	一般社団法人 全日本テレビ番組製作社連盟 理事長
-------	---------	--------------------------

1-iii コ・フェスタ2023 イベント一覧

コアイベント

	イベント名	開催期間	主な開催場所
1	東京ゲームショウ2023	ビジネスデー:9月21日(木)・22日(金) 一般公開:9月23日(土)・24日(日)	幕張メッセ
2	第36回東京国際映画祭	10月23日(月)~11月1日(水)	日比谷・有楽町・丸の内・銀座地区
3	TIFFCOM 2023	10月25日(水)~27日(金)	東京都立産業貿易センター浜松町館
4	第20回東京国際ミュージック・マーケット(TIMM)	10月25日(水)~27日(金)	東急歌舞伎町タワー
5	AnimeJapan 2024	パブリックデー:2024年3月23日(土)・24日(日) ビジネスデー:2024年3月25日(月)・26日(火)	東京ビッグサイト・東京ドームシティプリズムホール

オフィシャルイベント

	イベント名	開催期間	主な開催場所
1	KYOTO CMEX2023	2023年6月~2024年2月	みやこめっせ(京都市勧業館)、京都国際マンガミュージアム、京都文化博物館、東映京都撮影所、松竹撮影所、東映太秦映画村など
2	Rakuten Fashion Week TOKYO 2024 S/S・A/W	2024 S/S:8月28日(月)~9月2日(土) 2024 A/W:2024年3月11日(月)~16日(土)	渋谷ヒカリエ・表参道ヒルズ 他
3	CEATEC 2023	10月17日(火)~20日(金)	幕張メッセ
4	国際ドラマフェスティバル in TOKYO 2023 (東京ドラマアウォード 2023)	10月24日(火)	東京プリンスホテル
5	第50回 日本賞 教育コンテンツ国際コンクール	11月20日(月)~23日(木)	WITH HARAJUKU HALL
6	Tokyo Docs 2023	10月30日(月)~11月1日(水) リアル 11月2日(木)~6日(月) オンラインミーティング	Akihabara UDX Theater
7	Inter BEE 2023	11月15日(水)~17日(金) リアル 11月6日(月)~12月15日(金) オンライン	幕張メッセ / オンライン
8	INTER BEE IGNITION × DCEXPO	11月15日(水)~17日(金) リアル 11月6日(月)~12月15日(金) オンライン	幕張メッセ / オンライン
9	2023 国際ロボット展	11月29日(水)~12月2日(土) リアル 11月22日(水)~12月15日(金) オンライン	東京ビッグサイト 東1~8、西3・4ホール / オンライン
10	東京アニメアワードフェスティバル2024	2024年3月8日(金)~11日(月)	池袋シネマ・ロサ、池袋HUMAXシネマス、グラッドシネマサンシャイン池袋、シネ・リーブル池袋、TOHOシネマズ池袋ほか

パートナーイベント

	イベント名	開催期間	主な開催場所
1	第45回ぴあフィルムフェスティバル2023	9月9日(土)~23日(土)	国立映画アーカイブ
2	京都国際マンガ・アニメフェア 2023	9月16日(土)・17日(日)	京都市勧業館みやこめっせ・ロームシアター京都ほか
3	SKIPシティ国際Dシネマ映画祭 2023	7月15日(土)~23日(日) リアル 7月22日(土)~26日(水) オンライン	SKIPシティ 映像ホール、多目的ホールほか
4	第39回 ATP 賞テレビグランプリ	7月6日(木)	東京プリンスホテル プロビデンスホール
5	第48回湯布院映画祭	8月24日(木)~27日(日)	ゆふいん ラックホール
6	きものサロナーネ2023	11月4日(土)・5日(日)	東京国際フォーラム E1ホール
7	吉祥寺国際アニメーション映画祭	2024年2月23日(金)~25日(日)	武蔵野公会堂
8	NoMaps2023	9月13日(水)~17日(日)	札幌市内中心部会場 / 一部オンライン
9	第15回京都ヒストリカ国際映画祭	2024年1月23日(火)~28日(日)	京都文化博物館フィルムシアター / オンライン
10	MPTE AWARDS 2023 第76回 表彰式	11月1日(水)	東京国際フォーラム ホールD5
11	映文連 国際短編映像祭「映文連アワード 2023」	11月27日(月)~29日(水)	表彰式: 国立新美術館講堂 上映会: ユーロライブ
12	第16回アジア国際子ども映画祭	12月16日(土)	南あわじ市文化体育館
13	ヨコハマ・フットボール映画祭 2023	6月17日(土)~23日(金)	かなつくホール、シネマ・ジャック&ベティ

海外パートナーイベント

	イベント名	開催期間	主な開催場所
1	HYPER JAPAN Festival 2023	7月21日(金)~23日(日)	Olympia London
2	バンコク日本博 2023	9月1日(金)~3日(日)	サイアムパラゴンショッピングセンター5階ロイヤルパラゴンホール
3	Anime Festival Asia 2023(AFA 2023)	11月24日(金)~26日(日)	Suntec Singapore Convention & Exhibition Centre

(開催時期順)

1-iv 百人委員会 企業一覧

コ・フェスタを広く経済界から支援するため2007年に設立。
コンテンツ産業とその他の産業との連携及びグローバル展開の強化を目的とする。

■百人委員会 委員長

MS & AD インシュアランスグループ ホールディングス株式会社 取締役会長 柄澤 康喜

■委員一覧 百人委員会就任企業 90社

株式会社 IHI	株式会社テレビ朝日
株式会社 ADK エモーションズ	テレビ大阪株式会社
AOI TYO Holdings 株式会社	株式会社テレビ東京
株式会社 朝日新聞社	株式会社 電通
株式会社 IMAGICA GROUP	東映株式会社
ウシオライティング株式会社	東映アニメーション株式会社
MS & AD インシュアランスグループホールディングス株式会社	東海テレビ放送株式会社
株式会社 NHK エンタープライズ	東宝株式会社
NBC ユニバーサル・エンターテイメントジャパン 合同会社	株式会社東北新社
沖電気工業株式会社	株式会社トーセ
株式会社 KADOKAWA	株式会社 トーハン
株式会社 カプコン	TOPPANホールディングス株式会社
関西テレビ放送株式会社	名古屋テレビ放送株式会社
株式会社 木下グループ	日活株式会社
ギャガ株式会社	日揮ホールディングス株式会社
キヤノンマーケティングジャパン株式会社	株式会社 日経BP
キリンホールディングス株式会社	株式会社日本経済広告社
キングレコード株式会社	株式会社 日本経済新聞社
株式会社クオラス	日本コロムビア株式会社
株式会社 コーエーテクモゲームス	日本テレビ放送網株式会社
株式会社 講談社	日本電気株式会社
コダック合同会社	日本航空株式会社
株式会社 コナミデジタルエンタテインメント	野村ホールディングス株式会社
株式会社 ゴンゾ	株式会社 博報堂
株式会社 サンリオ	株式会社博報堂DYメディアパートナーズ
株式会社 CBC テレビ	株式会社ハップ
松竹株式会社	株式会社バンダイナムコホールディングス
株式会社 レゾナック・ホールディングス	ぴあ株式会社
スカパーJSAT 株式会社	株式会社ヒューマックスシネマ
株式会社 スクウェア・エニックス・ホールディングス	株式会社フォーライフ ミュージックエンタテインメント
住友化学株式会社	株式会社フジテレビジョン
住友商事株式会社	株式会社ポニーキャニオン
セイコーエプソン株式会社	株式会社ホリプロ
ソニーグループ株式会社	株式会社 毎日新聞社
ソニーPCL 株式会社	株式会社毎日放送
株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメント	株式会社みずほフィナンシャルグループ
大日本印刷株式会社	株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ
株式会社大和証券グループ本社	森ビル株式会社
株式会社タカラトミー	ユニバーサル ミュージック合同会社
中京テレビ放送株式会社	吉本興業株式会社
株式会社 TBS テレビ	株式会社読売新聞グループ本社
株式会社 テイチクエンタテインメント	讀賣テレビ放送株式会社
デジタルハリウッド大学	琉球放送株式会社
株式会社手塚プロダクション	株式会社ワーナーミュージック・ジャパン
テレビ愛知株式会社	株式会社 WOWOW

(2023年8月1日時点 五十音順)

コ・フェスタの最高意思決定機関として、上申された事項を審議、決議。コ・フェスタ各イベントの実施および広報活動ならびに各業界イベントとの協力体制の確認と強化を行なった。コ・フェスタ事業の目的を実行委員で共有し、意思統一を図ることができた。

●開催概要

日時：2023年9月12日（火） 15：00-16：15

場所：野村コンファレンスプラザ日本橋6F大ホール

参加者：実行委員、各イベント主催者、百人委員、実行本部など41人

司会：コ・フェスタ実行本部 映像産業振興機構・事務局次長 榎田寿文

議長：コ・フェスタ実行委員長 迫本淳一

●会議内容

1 開会の挨拶

特定非営利活動法人映像産業振興機構 専務理事・事務局次長 市井三衛

2 審議事項

・第1号議案 コ・フェスタ2023実行委員選任の件

・第2号議案 オフショールイベントなど承認の件

2023年9月12日時点のコアイベント5、オフィシャル10イベント、パートナー13イベント、海外パートナー3イベントの承認。コアイベントとオフィシャルイベントの各主催者からイベント概要説明が行われた。

3 報告事項

・コ・フェスタ百人委員会についての説明

4 関係各省庁よりコ・フェスタ2023海外展開支援へのメッセージ

内閣府、総務省、外務省、文化庁、経済産業省、国土交通省観光庁、東京都の7名からコ・フェスタ事業継続の重要性を込めたメッセージを頂いた。

内閣府 知的財産戦略推進事務局 次長

佐野野一郎

総務省 情報流通行政局 官房審議官（情報流通行政局担当）

山崎 良志

外務省 大臣官房文化交流・海外広報課 上席専門官

高屋 知志

文化庁 内閣官房 内閣審議官（文部科学戦略官・文化戦略官）

中原 裕彦

経済産業省 大臣官房商務情報政策局審議官（IT戦略担当）

牛山 智弘

国土交通省 観光庁 国際観光部 国際観光課 新市場開発室 室長

水野 真司

東京都 産業労働局 観光部振興課 地域振興担当課長

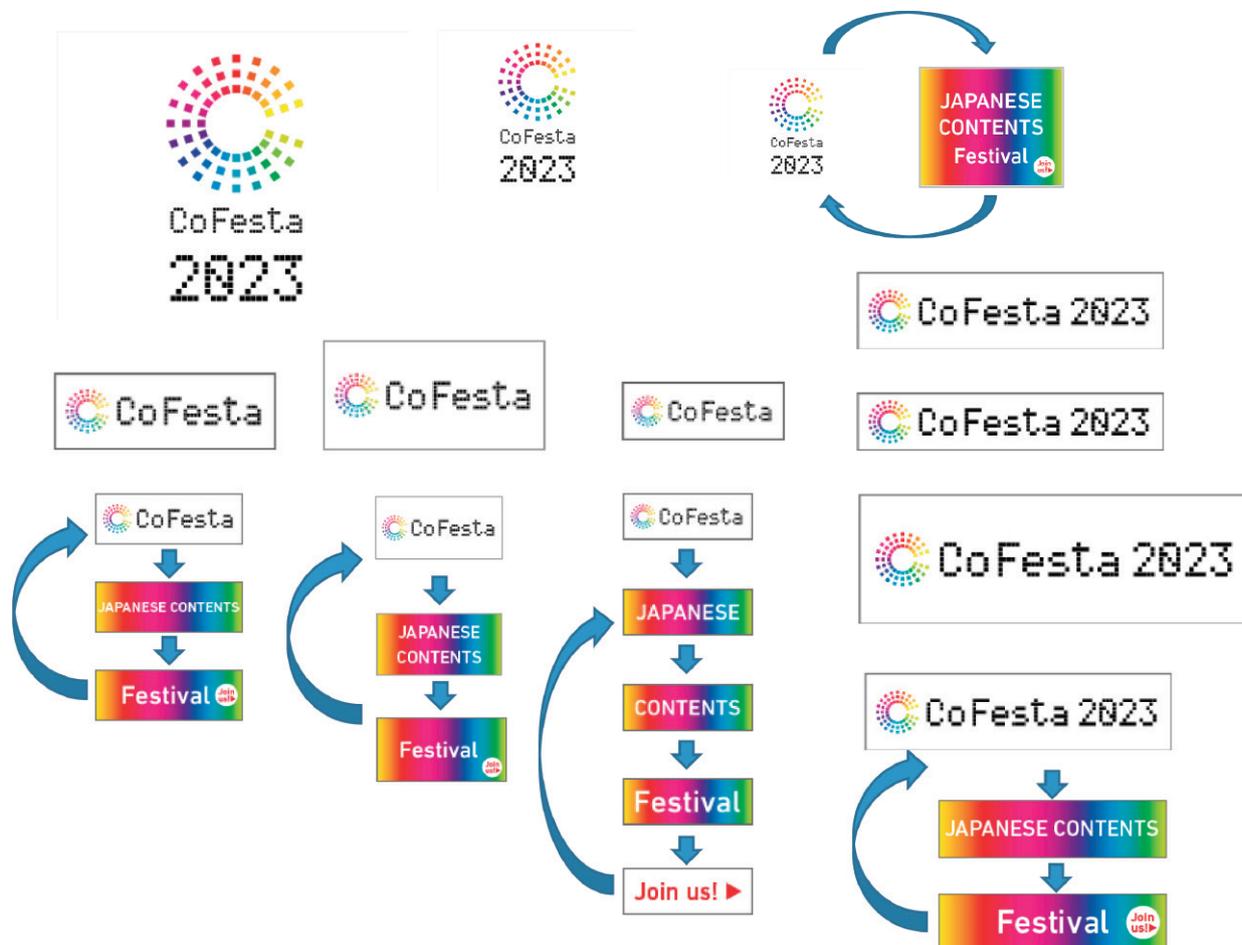
阿久澤達也



3 プロモーション

■ 広報制作物

アニメーション GIF バナー：8 サイズ



JPG バナー：8 サイズ



コ・フェスタ 2023 ロゴのデザインの監修・制作を、クリエイティブスタジオの(株)OXCEに委託した。
デザイン：(株)OXCE

4-i コ・フェスタ2023 コアイベント

コ・フェスタ コアイベントは、コ・フェスタイベントのうち、国際性及び規模等において、コ・フェスタの集中的な支援による効果が期待できるイベントとして、コ・フェスタ実行委員会が認定したイベントである。2023年度は5イベントが認定された。リアル開催が完全復活し、新しいイベントの試みも催され、日本のコンテンツの海外展開や人の交流が促進された。

-
- 1 東京ゲームショウ2023
 - 2 第36回東京国際映画祭 (TIFF)
 - 3 TIFFCOM 2023
 - 4 第20回東京国際ミュージック・マーケット (TIMM)
 - 5 AnimeJapan 2024
-

コアイベント

東京ゲームショウ2023

TOKYO GAME SHOW 2023

会 期：2023年9月21日（木）～24日（日）
会 場：幕張メッセ
主 催：（一社）コンピュータエンターテインメント協会
共 催：（株）日経BP／（株）電通
後 援：経済産業省
対 象：コンピュータエンターテインメント業界関係者および一般
公式サイト URL：https://tgs.cesa.or.jp

総来場者数（参加数）：243,238人
出展社数：787社（過去最多）
内 訳：（国内出展社数：381社 海外出展社数：406社）
出展参加国と地域数：44の国と地域
ビジネスマッチング
・登録アカウント数：7,786
・商談申込数：19,123
・商談成立数：2,355
プレス社数：延べ1,436媒体 3,488人
内訳（国内プレス社数：延べ979媒体 2,575人 海外プレス社数：延べ457媒体 913人）

■開催内容

TGS2023は787の企業・団体が出展。リアル会場は4年ぶりに幕張メッセ全館を利用し、ファミリーゲームパークやコスプレエリアが復活。イベントホールに設置したメインステージでは、「基調講演」や「日本ゲーム大賞発表授賞式」などの主催者プログラムその他、初の試みとして、音楽やファッションとのコラボステージも実施した。

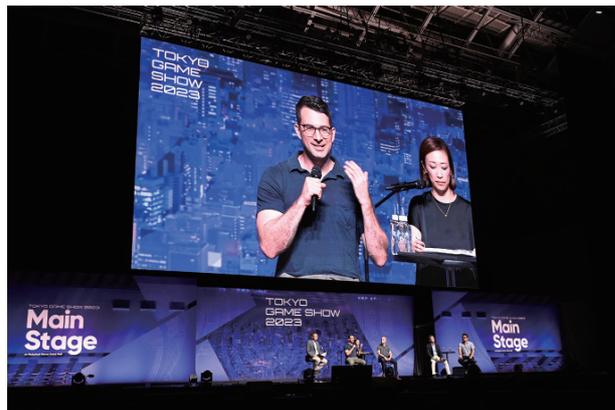
また、主催者および出展社による公式番組の配信、バーチャル会場の「東京ゲームショウVR 2023」（略称：TGSVR2023）、Steam特設サイトなどのオンライン企画も用意し、過去最大規模のハイブリッド開催となった。

オンライン企画として2020年から実施している公式番組は、TGSのYouTube公式チャンネルやX（Twitter）公式アカウント、ニコニコやSteamのTGS特設ページなどさまざまなプラットフォームで配信。中国向けにはDouYu、bilibili、HUYAといった動画メディア、欧米向けには世界最大級のゲームメディアであるIGNと連携して配信した。

ほとんどの番組は日本語版に加えて、英語の同時通訳版や字幕付き版も用意。一部の番組は、中国語の同時通訳付きも配信し、海外の方々にも多数ご視聴いただいた結果、ライブ配信とアーカイブ配信を合わせた総視聴数は2,240万回となった（期間：9月21日～10月2日）。

3年目となったTGSVR2023も9月21日（木）からオープン。昨年より会期を延ばし、10月8日（日）までの18日間開催したほか、新たにスマートフォンでの体験も可能にした。来場者はゲームの世界に入り込み、クエストやシアターを楽しみながら、旅するように会場をまわることができ、トータル来場者数は319,967人、平均滞在時間は約48分と多くの方に参加頂いた。

ゲームは、コロナ禍にあって、人と人をつなげるエンターテインメントとして、その価値が大いに注目された。また、eスポーツ、ゲーム実況など、ゲームの楽しみ方の多様化が進み、ゲーミングPCやゲーミング家具などの関連商品も拡大している。メタバースやNFTといった技術はゲームから広がりを見せ、ゲームで培われた技術が他の産業でも活用されるようになった。ゲームの影響力は大きくなり、ゲームビジネスへの新規参入も増えている。こうしたゲーム産業の進化・拡大を受けて、TGS2023は、「ゲームが動く、世界が変わる。」をテーマに完全復活を遂げることができた。



東京ゲームショウ2023

TOKYO
GAME SHOW 2023

■ 2023年度の新規取り組みとその成果・特色など

① 新たな出展コーナーの設置

ゲームの楽しみ方や多様化、ゲーム産業のすそ野の広がりを受け、ゲーム用PCや周辺機器などを展示する「ゲーミングハードウェアコーナー」、ゲーミング家具やゲーム部屋等を紹介する「ゲーミングライフスタイルコーナー」を新設しゲーム業界外からの出展を確保。東京ゲームショウにおける新たなビジネス展開の可能性を見いだせた。

② メインステージにおける新企画の実施

イベントホールにメインステージを開設し、より多くの人にゲームの楽しさを知っていただくことを目的に「ゲームとカルチャーの融合」をテーマにしたコンセプトを体現すべく、ファッション、音楽、eスポーツなど様々な要素と融合したステージコンテンツ企画を実施。

新たなゲームショウの形をユーザーやメディアにPRすることができた。

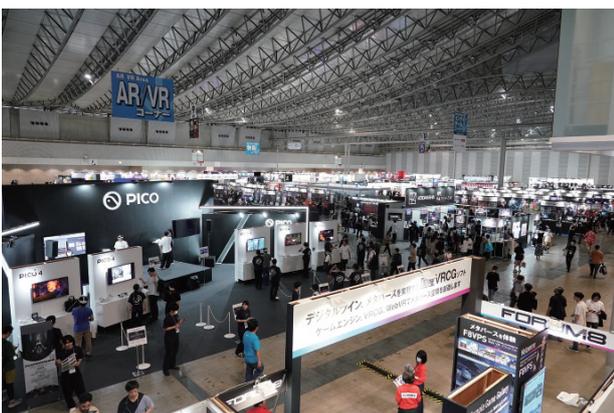
③ インフルエンサーによる情報発信の強化

TGS2023では、情報をグローバルに発信することを目的に、アジア・パシフィックの各国・地域を代表するインフルエンサーを対象に「Official Influencer From Asia-Pacific」を初めて募集。選考の結果、10の国・地域からオフィシャルインフルエンサーを選出し、TGSで発表される最新ゲーム情報や会場の様子などを自身のチャンネルで発信した。

また、更なる情報発信力のアップを目的に、ゲーム実況などを動画サイトやSNSで配信しているインフルエンサーをビジネスディから積極的に誘致。主催者や出展者が招待したインフルエンサーに加えて、基準をクリアした一般インフルエンサーが来場し、TGSの盛り上がりを多くの人に伝えることが出来た。

④ ゲームとプロセッサの歩み

90年代から現代までのゲームコンテンツとプロセッサの関わりにフォーカスし、コンピュータエンターテインメントがたどってきた歩みを体系的に網羅したパネル展示「ゲームとプロセッサの歩み」を実施。トピックに合わせて登場した代表的なゲームコンテンツを現代のPC上でエミュートし、試遊できる環境を提供した。



コアイベント

第36回東京国際映画祭

東京国際映画祭 TOKYO INTERNATIONAL FILM FESTIVAL 2023

会 期：2023年10月23日(月)～11月1日(水)

会 場：日比谷・有楽町・丸の内・銀座地区

主 催：(公財)ユニジャパン

共 催：経済産業省／国際交流基金(アジア映画交流事業)／東京都(コンペティション部門、ユース部門)

後 援：総務省／外務省／千代田区／中央区／(独)日本貿易振興機構／国立映画アーカイブ／(一社)日本経済団体連合会／東京商工会議所／(一社)日本映画製作者連盟／(一社)映画産業団体連合会／(一社)外国映画輸入配給協会／モーション・ピクチャー・アソシエーション(MPA)／全国興行生活衛生同業組合連合会／東京都興行生活衛生同業組合／(特非)映像産業振興機構／(一社)日本映像ソフト協会／(公財)角川文化振興財団／(一財)デジタルコンテンツ協会／(一社)デジタルメディア協会

助 成：文化庁文化芸術振興費補助金(映画支援事業)

対 象：一般

公式サイト URL：<https://2023.tiff-jp.net/>

総来場者数(参加数)：541,024人

出展参加国と地域数：114の国と地域

■開催内容

日本で唯一の国際映画製作者連盟公認の国際映画祭として、才能溢れる新人監督から熟練の監督までを対象に、世界中から厳選されたハイクオリティなプレミア作品を集結させて、メインとなる長編コンペティション部門など様々な部門で国内外に発信。映画上映以外に学生、プロフェッショナル、ビジネス来場者を対象とした貴重なセミナー、シンポジウムやワークショップなども開催し、フォーラムやマーケットとの連動を意識した参加交流型フェスティバルとして人と映画、ビジネスのリンケージを実現している。

■2023年度の新規取り組みとその成果・特色など

小津安二郎生誕120年に絡めて国立映画アーカイブでのフィルム上映と一緒に大々的な小津安二郎作品の特集を組み、シンポジウム、Jazzライブ付き上映などの企画を実施、国内外で大きな注目を集めた。これまでのジャパニーズ・アニメーション部門をアニメーション部門としてこれまでは国内アニメのみだったところを国内外のアニメを集め上映。また中学生を対象とした映画ワークショップ「TIFFティーンズ映画教室」では海外からも識者を集めて映画教育に関する国際シンポジウムを開催した。

■他イベントや非コンテンツ企業との連携事例などの実施事例、件数や成果

Tokyo Cinema Daysと称して都内の全映画館を対象とした「#」キャンペーンを実施、応募数は300件弱だったが、映画館関係者からはとても喜ばれた。今後も継続予定。



© 2023 TIFF



© 2023 TIFF



© 2023 TIFF



© 2023 TIFF



© 2023 TIFF



© 2023 TIFF

TIFFCOM2023

 TIFFCOM

会 期：2023年10月25日(水)～27日(金)
 会 場：東京都立産業貿易センター 浜松町館
 主 催：経済産業省／総務省／(公財)ユニジャパン
 後 援：(一社)映画産業団体連合会／(一社)外国映画輸入配給協会／(一社)コンピュータエンターテインメント協会／
 (一社)デジタルコンテンツ協会／(協組)日本映画製作者協会／(一社)日本映画製作者連盟／
 (一社)日本映像ソフト協会／(一社)日本経済団体連合会／(一社)日本動画協会／(独)日本貿易振興機構(ジェトロ)／
 (一社)日本民間放送連盟
 対 象：映画、テレビ、アニメーション、キャラクター・ライセンス／商品化、原作(小説／コミック)、出版、モバイル／インター
 ネット、ホームエンターテインメント(DVD/Blu-ray)、イベント／コンサート、ゲーム、フィルムコミッション／フィルム
 ファンド、ポストプロダクション／翻訳、サービス・プロバイダー、タレント・エージェンシー、業界団体、官公庁／大
 使館、地方自治体などのコンテンツホルダー及び関連団体・企業
 公式サイト URL：<https://tiffcom.jp/>

総来場者数(参加数)：3,851人(52の国と地域)
 内訳：(国内入場者数(参加数)：2,476人 海外入場者数(参加数)：1,375人)
 出展社数：349社
 内訳：(国内出展社数：116社 海外出展社数：233社)
 ビジター数：929人
 内訳：(国内ビジター：326人 海外ビジター：603人)
 商談件数：6,308件
 成約金額：95,252,468 USドル
 プレス社数：75社

■開催内容

本年度のTIFFCOMは、例年通り東京国際映画祭と併設の国際映像コンテンツ見本市として、10月25日から27日までの3日間、節目となる第20回目の開催となった。2020年からコロナ禍のため3年連続でオンライン開催だったが、4年ぶりにリアルで開催。会場も4年前の池袋から浜松町にある東京都立産業貿易センター浜松町館に移し、日比谷・有楽町地区の東京国際映画祭と連携をとりやすくした。52の国・地域から3,851人が参加し、海外からも1,375人が参加。日本コンテンツへの期待が大きかったことが示された。新会場の2F～5Fの4つのフロアを、2Fに受付と映画会社、3Fにテレビ局、4Fにアニメの会社のブースを配置、5Fはセミナー会場やTokyo Gap-Financing Market(TGFM)、TOKYO Story Market等のイベントを開催するスペースとした。出展ブースは国内が116社、海外が233社、そのスペースは国内、海外でほぼ同じだった。2019年よりも海外出展スペースが10%ほど上昇。パピリオン出展は国内が日本テレビ系列のNNS、海外からは中国、台湾、韓国、タイ、カンボジア、イタリア、ロシア。東京国際映画祭の出品作をセールスするブースとしてTIFFセラーブースを開設。国内外合わせて14作品が揃った。セミナーは会期3日間にわたって7企画を実施。日中の映像プロデューサー参加のパネルディスカッション、タイのBLコンテンツ、日本アニメの海外戦略について2つのセミナー、フジテレビの海外戦略、イタリアとの合作、MPA主催の企画ピッチコンテストなど、様々な分野の最新トピックスを厳選し、どのセミナーも200席の会場が大盛況であった。資金調達マーケットであるTGFMは今回で4回目、リアル開催は初開催。15の企画に対して、国内外から88名のインベスターが参加し、合計374件のミーティングの機会が持たれた。また、昨年のTGFMに参加した富名哲也監督の「わたくしどもは。」が完成し、今年の東京国際映画祭のコンペに選出され、今後の東京国際映画祭とTIFFCOMの連携の目指す方向性が示された。新たにスタートした原作から映像化への許諾に特化したTOKYO Story Marketは、日本を代表する出版社4社が参加し、海外から37名にプロデューサーが参加し、89件のミーティングがもたれた。



■ 2023年度の新規取り組みとその成果・特色など

2023年度のTIFFCOMの新規取り組みとして、TOKYO Story Marketを初開催した。日本が海外に誇る原作（小説・ラノベ・コミック）の映像化権に特化したマーケットである。日本を代表する4つの出版社であるKADOKAWA、講談社、集英社、小学館が参加し、TIFFCOM事務局が招聘した海外の映像プロデューサー37名と89のミーティングの機会を持った。この4社が揃って参加したことで、日本経済新聞の本紙など、多くのメディアに取り上げられた。日本の他の出版社からも来年の参加を望む声があり、参加した4社の担当者からも今回の機会が有意義であったこと、来年度以降も継続してほしいこと等、好意的な意見が寄せられた。TIFFCOMとしては完成したコンテンツの売買だけでなく、コンテンツが作られる場面への参加機会を商談として提供できるようにして、新しい映像コンテンツのマーケットを模索していきたい。

■ 他イベントや非コンテンツ企業との連携事例などの実施事例、件数や成果

同時期に開催する東京国際映画祭と今年度も様々な連携を行った。4年ぶりにリアル開催となったTIFFCOMの会場を新たに産業貿易センター浜松町館として、東京国際映画祭の日比谷・有楽町地区と近くした。また、両会場を直接つなぐシャトルバスを用意した。IDパスのQRコードで両会場の入場を可能にし、試写会やセミナーに参加できるようにした。TIFFCOMの会場内にTIFFセラーブースを設置し、映画祭出品作については希望があれば無料でセールスが出来るようにした。また、映画祭側で用意した出品作品のオンラインスクリーニングに、TIFFCOMに参加したバイヤーが視聴できるように手配した。東京国際映画祭のラインナップ発表記者会見の際に、TIFFCOMの概要を告知するコーナーを設け、映画祭と連動した記事露出や、その後の取材等にもつなげることが出来た。オンラインに比べて、リアル開催になったことで、より実質的な連携が図られた。



第20回東京国際ミュージック・マーケット (20thTIMM)



会 期：2023年10月25日(水)～27日(金)
 会 場：東急歌舞伎町タワー
 商談会：17階-HOTEL GROOVE SHINJUKU
 セミナー：10階-109シネマズプレミアム新宿
 ライブ：地下-Zepp Shinjuku
 主 催：経済産業省／(特非)映像産業振興機構／(一財)日本音楽産業・文化振興財団
 後 援：(一社)コンサートプロモーターズ協会／(一社)私的録音録画補償金管理協会／(一社)日本音楽事業者協会／
 (一社)日本音楽出版社協会／(一社)日本音楽制作者連盟／(一社)日本音楽著作権協会／
 (公社)日本芸能実演家団体協議会／(独)日本貿易振興機構／(一社)日本レコード協会
 対 象：国内外の音楽業界関係者
 公式サイト URL：https://www.timmjp.com

総来場者数(参加数)：3,058人
 内訳：(国内入場者数(参加数)：2,922人 海外入場者数(参加数)：136人)
 ビジネスエリアの来場者数(参加数)：1,479人
 内訳：(国内入場者数(参加数)：1,343人 海外入場者数(参加数)：136人)
 出展社数：25社
 内訳：(国内出展社数：24社 海外出展社数：1社)
 出展参加国と地域数：24の国と地域
 バイヤー数：136人
 内訳：(国内バイヤー：0人 海外バイヤー：136人)
 商談件数：128件
 成約金額：270,000USドル
 プレス社数：9社
 内訳(国内プレス社数：9社 海外プレス社数：0社)



■開催内容

日本音楽の海外進出を支援する国際見本市“東京国際ミュージック・マーケット (TIMM)”は、20回目の記念開催となった今年度、待望の4年ぶりとなるフルスペックの会場開催を再開し、コロナ禍で停滞したリアル会場でのビジネスマッチングを再び活性化させるべく、主要プログラムである商談会・ネットワーキング、ビジネスセミナー及びショーケースライブのそれぞれを例年以上にパワーアップさせて実施した。

会場は、同年4月に新宿歌舞伎町にオープンした各種エンターテインメント施設が集結し、新宿の新たなランドマークとなる「東急歌舞伎町タワー」を使用。これにより、TIMM参加者は商談会やセミナー、ショーケースライブ等、各プログラムの参加から宿泊まで同一施設の中で完結する事が可能になった。

また、コロナ禍のオンライン開催会場として使用したビジネスマッチングサイト「TIMM ONLINE」を引き続き活用。サイトに実装するメッセージ機能を使っての商談のアポイント取りや会期後の参加者間の事後フォロー、更にはセミナーやライブのアーカイブ動画もサイト内で配信し、年間を通したビジネスマッチングもサポートしている。

■2023年度の新規取り組みとその成果・特色など

1) 音楽系エージェント、キュレーター等の招聘強化

世界の音楽業界ではサブスクリプションがビジネス(収益化)、プロモーション等の主流になっており、これまでのCD等の商品毎のライセンスビジネスやプロモーションから、サブスクリプションの契約を経ていかに楽曲の再生回数を上げていくか、というフェーズに移行している。その傾向を受け、TIMMの招聘バイヤーについても、これまでは音源ライセンス契約を目的とするバイヤーや興行イベントの主催者らが中心であったが、近年は現地のプロモーションに直結するエージェントやキュレーター等の招聘強化にも取り組んでおり、今年度はそれらカテゴリーで88名が参加している。

また、毎回参加している出展者から希望の多い「新規の人脈作り」の声に応えるべく、今年度初めて参加した「新規バイヤー」は71名となり、共に参加者から好評を得た。

2) ショーケースライブの内容強化

過去のTIMMでは、ショーケースライブへの出演エントリーが可能となるのが出展申込者のみとなっており、自ずと出展者サイドの意向が強いラインナップのライブとなっていた。一方で、海外バイヤー等からは、既に国内、もしくは海外で人気の出演者が出ているアーティストの出演を望む声が寄せられるという現状があった。

この状況を両者にとって最適な状態にするべく、今年度の出演エントリーに際しては、出展申込の有無に関わらずエントリー可能(出演決定後はブース出展による商談会への参加が条件)とし、選定については、エントリーアーティストの過去実績や今後の海外展開計画の内容によって選定した。

これらにより、国内において既に人気があるアーティストの出演が増え、海外バイヤー等からも好評を得ると共に、海外に向けて今の最新のJ-POPシーンをアピールする事にもつながった。

3) セミナー内容の強化について

セミナーのテーマ選定に関しては、毎年音楽業界の海外進出に関する注目度の高いテーマを中心にピックアップし、各方面のオピニオンリーダーらに講師を依頼しており、毎年好評をいただいていた。今年度についても、同様にテーマの決定や講師のブッキングを続けると共に、キーノートトークについても20回目の記念開催に相応しい内容とするべく、海外展開で大きな実績を上げてきたアーティストに登壇いただき、そのノウハウや感触など、アーティスト視点での経験談を講義いただいたことで、キーノートも含めた全6本のセミナーに関し、どれも好評をいただいた。

4) 新人・若手クリエイターが活躍できる機会を創出するビジネスマッチングスキームの確立

出展プランの「ライトプラン(個人プラン)」を継続展開し、新人・若手クリエイターが個人でもローコストで参加できるよう配慮した。また、ショーケースライブの出演アーティストの選定については、前述の通り原則過去の実績や今後の海外展開計画等を評価ポイントとして選出しているが、実績等で劣る新人・若手アーティストに関しては、オープニングアクトとして出演枠を確保した。

■他イベントや非コンテンツ企業との連携事例などの実施事例、件数や成果

●他団体との連携セミナーの実施など

2日間で6本のビジネスセミナーを公開したうち、2本のセミナーを連携セミナーとして実施した。連携先は、(一社)日本音楽出版社協会(MPAJ)と(一社)Independent Music Coalition Japan(IMCJ)の2団体。

また、出展に関し、(一財)デジタルコンテンツ協会(DCAJ)の紹介による出展社が1社参加した。

●JETROとの連携

JETROと連携し、2023年9月25日～29日に「TIMM2023×JETRO音楽コンテンツ・オンライン商談会」を実施した。実施に際しては、出展者や招聘バイヤーへの告知面での相互協力も行っている。

●その他連携セミナーの実施

TIMM初日のプログラムは夜のショーケースライブとオープニングパーティーのみにて、開始までの昼の時間帯を利用してTIMMのセミナー会場にて以下2本の連携セミナーを実施した。

- ・セミナー①テーマ：「YouTube Music Insider」

主催：YouTube Music Japan

日時：10月25日(水) 15:30～17:00

会場：109シネマズプレミアム新宿 シアター7

- ・セミナー②テーマ：「グローバルに活躍できる次世代の音楽業界のリーダーを育成するために必要なこと」

主催：(一社)Independent Music Coalition Japan(IMCJ)

日時：10月25日(水) 17:30～18:00

会場：109シネマズプレミアム新宿 シアター7

●連携フリーライブの実施

TIMM会期中の二日間、TIMM会場の東急歌舞伎町タワー前にあるシネシティ広場においてフリーライブを実施し、音楽系マーケットイベントとしてのバリューアップを図った。なお、TIMMでは同ライブ出演アーティストの斡旋も行っている。

- ・イベント名：Kabukicho Music Live

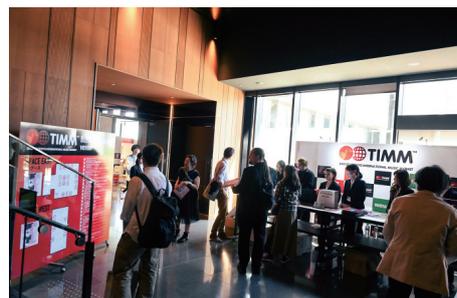
主催：歌舞伎町商店街振興組合、TSTエンタテインメント他

会場：シネシティ広場

日時及び出演者：

10月26日(木)18:00～21:00/出演者：ナタリアダナエ、高橋一輝、MindaRyn

10月27日(金)18:00～21:00/出演者：中村滉己、坂田隆一郎、TENSONG



AnimeJapan 2024



会 期：[パブリックデイ] 2024年3月23日(土)・24日(日) 9:00~17:00
 [ビジネスデイ] 2024年3月25日(月) 10:00~18:00
 2024年3月26日(火) 10:00~17:00
 会 場：[パブリックデイ] 東京ビッグサイト 東展示棟 東1~8ホール(〒135-0063 東京都江東区有明3-10-1)
 [ビジネスデイ] 東京ドームシティプリズムホール(〒112-8575 東京都文京区後楽1-3-61)
 主 催：(一社) アニメジャパン
 特別協賛：Fate/Grand Order
 協 賛：ANICLI/d アニメストア/TOHO animation/KADOKAWA/SANKYO/日本コカ・コーラ(株)
 後 援：経済産業省/(一社) 日本動画協会/コミック出版社の会
 対 象：一般来場者/国内・海外ビジネス来場者/招聘海外バイヤー/アニメ関連企業・団体ほか
 公式サイト URL：<https://www.anime-japan.jp/>

総来場者数(参加数)：132,222人
 出展社数：パブリック：111社 ビジネス：52社(延べ)
 内訳：(国内出展社数：パブリック・ビジネス延べ163社 海外出展社数：パブリック・ビジネス延べ5社)
 出展参加国と地域数：4の国と地域

■開催内容

国内外を代表するアニメ関連企業・団体・コンテンツが集結する世界最大級のアニメイベント『AnimeJapan 2024』が、過去最大規模で2024年3月23日(土)・24日(日)にビックサイトにて開催。

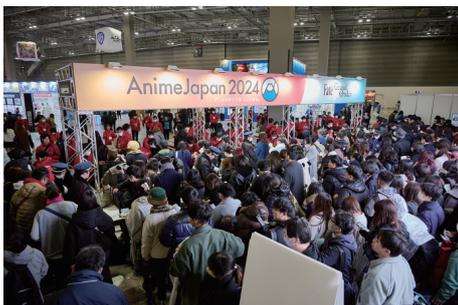
今回のパブリックデイはキャッチコピーの「アニメ、新時代。」にふさわしく、現在のアニメーションが十分に詰め込まれた会場には過去最大規模となる、のべ111の出展社による出展ブースや、全44プログラムを実施したAJステージ、5年ぶりの復活となった施策、新企画など、沢山の展開が実施された。

そして、一般アニメファンを主な対象とする「パブリックデイ」の開催の翌日3月25日・26日の2日間、アニメコンテンツに関する商談や、情報収集に訪れるビジネス目的の来場者を対象とする「ビジネスデイ」が5年ぶりにリアル開催をし、多くの商談の場となった。

□パブリックデイ

日本を代表する多くのアニメ関連企業がリアルで出展。各出展ブースにて作品展示・映像上映・グッズ販売・ステージイベントなどを実施した。また、主催による様々な施策も実施され、多くの来場者が様々な形でアニメ文化を楽しむ姿が見受けられた。5年ぶりの復活となったプロダクションワークスギャラリー、ファミリーアニメフェスタ、毎年恒例のコスプレイヤーズワールドから新企画のクリエイションステージなど、様々な展開を実施した。

- ・展開内容：出展ブース/AJステージ/オフィシャルグッズ販売/コスプレイヤーズワード/アニメ化してほしいマンガランキング/クリエイションステージ/Production Works Gallery/ファミリーアニメフェスタなど



□ビジネスデイ

5年ぶりにリアル開催となったビジネスデイでは国内外から多くのコンテンツホルダーやアニメ関連企業、団体が出展、ビジネス商談、ビジネスセミナー、出展社ピッチイベントなどを実施した。

日本国内・海外から多くのビジネス来場者に参加していただき、快適な商談環境の中で、出展社と活発な商談・情報交換が行われた。海外からは、AnimeJapanが独自に招聘した有力なバイヤーも数多く参加。国内アニメコンテンツの積極的な海外展開に関する商談が活発に行われた。また、恒例の主催施策として、初めてアニメビジネスに関わる方を対象としたアニメビジネスコンシェルジュを設置、異業種を含む多くのビジネス来場者のお問い合わせに対応した。

・展開内容：出展ブース／商談／ビジネスセミナー／アニメビジネスコンシェルジュ／アニメ作品・キャラクター紹介パネル／出展社ピッチイベント

■2023年度の新規取り組みとその成果・特色など

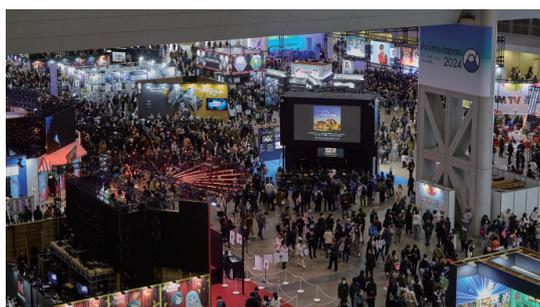
□クリエイションステージ：アニメ業界で活躍する「クリエイター」の方々を起用したステージ、2日間で10プログラムを実施。

アニメ制作に携わる仕事の魅力を伝えることで業界を身近に感じてもらうステージを展開。

□出展社ピッチイベント：ビジネスデイ出展社が自社紹介できるピッチコーナーを出展エリア内に設置。新しい作品や商品に出会う可能性を提供。

■他イベントや非コンテンツ企業との連携事例などの実施事例、件数や成果

今年も引き続き日本貿易振興機構（JETRO）様にご協力頂き、共催としてJETRO様が招聘する海外バイヤーと出展社とのビジネスマッチングを展開。



4-ii コ・フェスタ2023 オフィシャルイベント

コ・フェスタオフィシャルイベントは、コ・フェスタイベントのうち、国際性に富んだイベントで、その国際性及び規模等においてコアイベントに準じ、コ・フェスタ実行委員会が承認したイベントである。本年度は10イベントが認定された。国内外のデジタルイノベーションが紹介され、新たに生まれた多くのコンテンツを紹介する場を提供した。

- | | |
|----|---|
| 1 | KYOTO CMEX 2023 |
| 2 | Rakuten Fashion Week TOKYO 2024 S/S・A/W |
| 3 | CEATEC 2023 |
| 4 | 国際ドラマフェスティバル in Tokyo 2023 (東京ドラマアウォード2023) |
| 5 | 第50回 日本賞 教育コンテンツ国際コンクール |
| 6 | Tokyo Docs 2023 |
| 7 | Inter BEE 2023 |
| 8 | INTER BEE IGNITION × DCEXPO |
| 9 | 2023 国際ロボット展 |
| 10 | 東京アニメアワードフェスティバル2024 |

オフィシャルイベント

KYOTO CMEX 2023

KYOTO CMEX

1) 全体概要

会 期：2023年6月～2024年3月
会 場：みやこめっせ（京都市勧業館）／京都国際マンガミュージアム／京都文化博物館／東映京都撮影所／松竹撮影所／東映太秦映画村 他（オンライン視聴含む）
テーマ：「京都発コンテンツの祭典 ～京都が創る新しい世界—先端コンテンツのクロスメディア～」
主 催：KYOTO Cross Media Experience 実行委員会
連 携：コ・フェスタ、京都学生祭典
対 象：国内外や京都のコンテンツ産業関係者、若手クリエイターやクリエイターを目指す学生など
参加者：2,765,330名（オンライン視聴含む） 2024.2.1現在
〔オフィシャルイベント：2,667,487名／パートナーイベント：97,843名〕
※昨年度：1,884,724名〔オフィシャルイベント：1,823,233名／パートナーイベント：61,491名〕
公式サイト URL：https://cmex.kyoto/

2) 個別事業概要

クロスメディア

●レセプション

開催日：9月15日（金）
会 場：ハイアットリージェンシー京都
参加者：119名
内 容：コンテンツ業界及び関係する方々の分野横断的な人材交流と、KYOTO CMEXの取組紹介の場としてオープニングセレモニーを開催。アトラクションとしてマグロの解体ショーを実施した。

●コンテンツクロスメディアセミナー

内 容：業界で活躍するトップリーダーによるセミナーを開催し、コンテンツビジネスの可能性と未来像を探った。

〈第1回〉

開催日：9月15日（金）
会 場：ハイアットリージェンシー京都
テーマ：すでに存在しない千年前の京都を舞台にした映画を作る
講 師：片淵 須直 氏（アニメーション映画監督）
参加者：70名



〈第2回〉

開催日：11月20日（月）
会 場：京都プライトンホテル
テーマ：アニメーション映画が切り拓いてきたこと、そしてこれからの未来
講 師：齋藤 優一郎 氏（映画プロデューサー）
モデレーター：吉村 和真 氏（京都精華大学マンガ学部教授・専務理事）
参加者：42名



●京都クリエイティブ企業キャリアフォーラム

開催日：2月23日（金・祝）
会 場：京都コンピュータ学院京都駅前校
出展数：17社
参加者：282名
内 容：京都に本社やスタジオを持つアニメ・ゲーム等の制作事業者を集め、クリエイティブ業界に特化した就職説明会を開催。



●コンテンツパッケージ授業

開催日：9月30日（土）～12月23日（土）
会 場：キャンパスプラザ京都／京都国際マンガミュージアム
参加者：20名
内 容：コンテンツ分野に関する教育研究を推進している京都の諸大学が協力し、それぞれアート、デザイン、映画、マンガ、アニメ、ゲーム等の分野を分担してリレー講義することにより、京都から発展した日本の表現文化、映像文化を総合的に理解し、現状と展望を考える講義を実施した。

KYOTO CMEX 2023

KYOTO CMEX

●アニメプロジェクトGO-TAN！

□第5回古都コスプレ

開催日：9月16日（土）・17日（日）

会場：ロームシアター京都 ロームスクエア

参加者：1,000名（コスプレ参加者200名）

内容：アニメ・マンガ・ゲームのキャラクターに扮するコスプレパフォーマーによるダンス・歌・芝居・殺陣を中心としたイベントを開催した。

●京都太秦シネマフェスティバル

開催日：11月5日（日）、11月18日（土）・19日（日）

内容：「映画のまち 京都太秦」を基盤とした「コンテンツコミュニティ」の形成を図った。

□キッズ・シネマスタジオ

開催日：11月5日（日）

会場：東映太秦映画村

参加者：18名

内容：撮影所の本物の設備を使って、プロの映画監督・撮影所スタッフの指導により、子どもたちが楽しい映画作りを体験し、映画作りの魅力や関心を高めた。

作品：「タイムスリップ江戸の街」

□太秦上洛まつり

開催日：11月18日（土）・19日（日）

会場：東映太秦映画村

参加者：4,900名（コスプレ参加者1,250名）

内容：今回は「界-VERSE-」をテーマに実施。京都発のコンテンツを中心としたブース出展や、歴史ジャンルの出展などのほか、大河ドラマ『どうする家康』の制作統括・磯智明氏をお迎えしてのトークイベント、ブロックチェーンを活用したライフログSNS「PAZR」を活用したスポッターリーなど新たな取り組みも実施し、歴史創作コンテンツのクロスメディア発信拠点としての京都・太秦をPRした。



●京都デジタルアミューズメントアワード

表彰式：3月7日（木）

会場：ホテル日航プリンセス京都

内容：京都に縁のある、コンテンツ制作に意欲的に取り組む若手クリエイターやグループを表彰し、その活動を奨励・支援することにより、京都の培ってきた日本文化の発信や、京都のコンテンツ産業の振興を図る。

候補者：9名

●京都アニものづくりアワード2023

開催日：（応募受付期間）5月12日（金）～7月14日（金）まで
（表彰式）9月16日（土）15：50～17：00

会場：京まふ会場（みやこめっせステージ）

応募総数：134点

内容：国内各所で発表されたアニメ、マンガ、キャラクター等を活用した異業種コラボ（商品タイアップ、広告映像、クラフトデザイン、地域創生など）を紹介し、優れたものを表彰することで、よりクオリティの高いコラボコンテンツを増やしていくことを目的に開催。全134点の応募から、グランプリ1点を含め23点を選出した。



映画・映像

●京都ヒストリカ国際映画祭

開催日：1月23日（火）～28日（日）

会場：京都文化博物館／オンライン

参加者：1,529名

オンライントーク視聴回数：500回

内容：歴史映画をテーマにした国際映画祭。京都文化博物館シアターで18本を上映したほか、VR映画の展示、監督等をゲストに招いたオンライントーク「夜のヒストリカ」をフリンジ企画として開催。また、立命館大学映像学部と連携し、プレイイベント「映画と音楽の時空旅行」を開催し、『パガニーニ 愛と狂気のヴァイオリニスト』の上映に加え、立命館大学交響楽団と京都市立芸術大学の協力のもと演奏会も実施した。



【ヒストリカ・スペシャル】

TVアニメ『ONE PIECE』ワノ国編より2本の上映に加え、シリーズ演出やラインプロデューサーを迎えたトークを行った。

【ヒストリカ・ワールド】

ピエトロ・マルチェロ監督の新作『スカーレット』をはじめ、『パーティー・オブ・フールズ』『Filip』『カラヴァッジョの影』の4作品を日本初上映した。

【ヒストリカ・フォーカス】

“Look”をテーマに、見た目の印象で勝負を挑んだ先人たちの空想時代劇8作品の特集を組み上映した。

【その他連携企画】

ポーロニャ復元映画祭、イタリア文化会館-大阪、ヴェネツィア・ビエンナーレ-ビエンナーレ・カレッジ・シネマ、ポーランド・NNW国際映画祭、ポーランド広報文化センター、京都フィルムメーカーズラボと連携した。

【ヒストリカお座敷】

京都文化博物館の6階で映画というジャンルをハブに、ゲーム、アニメ、メタバース、NFT、生成AIのクリエイターが、様々なテーマで車座になってトークを行う「ヒストリカお座敷」を開催。コンテンツのクロスメディア展開や人材育成・交流を図った。

【HISTORICA X (クロス)】

今年度よりヒストリカ「HISTORICA X (クロス)」の名称を変更し開催。「DX化と生成AIによる新次元EIZOの時代」をテーマに、映像業界全体のDX化と生成AI活用に焦点を当て、コンテンツ制作における可能性について深掘した。併せて京都で開始されたヴァーチャルプロダクションプロジェクトの取り組みと撮影技術について聴講するHISTORICA企画の特別セミナーも開催した。

●京都フィルムメーカーズラボ

開催日：1月26日(金)～31日(水)

会場：松竹撮影所／東映京都撮影所／京都文化博物館ほか

参加者：746名

□ハンズオン時代劇

若手映像クリエイターを対象に、松竹撮影所、東映京都撮影所のオープンセットにて、美術、照明、衣裳など本編映画と同じ施設・道具を使用し、本格的時代劇を体験するワークショップを開催した。

□マスターズセッション

東京国際映画祭やヴェネチア国際映画祭など、国内外の国際映画祭との連携をベースに、著名な映画人や映像ビジネス関係者等を招聘し、映画・映像制作に関するレクチャー・ディスカッションを実施した。

〈講師〉

モニカ・ドゥーゴ(映画監督)、清水慎二(東映アニメーション)、長峯達也(東映アニメーション)、暮田公平(東映アニメーション)、赤堀哲嗣(東映アニメーション)、松本准平(映画監督)、永島聡(松竹撮影所)、村山峻平(NHKメディア総局第3制作センター『どうする家康』制作統括)、八木毅(映画監督・特撮監督)、アルカディウシュ・ゴウエンビエフスキ(ポーランドNNW国際映画祭ディレクター)、スワヴォミール・チョク(ポーランドNNW国際映画祭プログラムディレクター)、キアラ・トロイージ(映画監督)、ヴァレンティーナ・ヴェッローモ(ヴェネチアビエンナーレ・ビエンナーレ・カレッジ・シネマ)

●第15回京都映画企画市

□映画企画コンテスト・優秀映画企画上映会

開催日：9月23日(日)

会場：京都みなみ会館

参加者：50名

内容：時代劇の拠点としての京都の優位性を活かし、若手クリエイターが世に出る仕組みを構築するため、若手映画・映像製作者(監督、プロデューサー等)を対象とした時代劇企画コンテストを実施した。

また、2016年度優秀作品企画の蔦哲一朗監督『黒の牛』が日本、台湾、アメリカの国際共同製作で長編映画化されることを受け、パイロット版を上映した。

応募企画数：55企画

優秀賞作品企画：『サバイバル忍者』(企画者：馬杉雅喜氏 監督)

〈評価者〉

犬童一心 [監督]

矢島孝氏 [松竹(株) 映像企画部映画企画室プロデューサー]

和田隆氏 [映画記者／プロデューサー]



KYOTO CMEX 2023

KYOTO CMEX

□映画企画相談会

開催日：9月9日(土)

会場：オンライン

参加者：8名(第15回京都映画企画市ファイナリスト5名と評価採点上位者から3名を選出)

内容：第一線で活躍するプロデューサーによる企画指導

(指導者)

久保田 傑 (㈱オフィス・シロウス プロデューサー)

永井 拓郎 (㈱リキプロジェクト 代表取締役)



マンガ・アニメ

●京都国際マンガ・アニメフェア【略称：京まふ】

開催日：9月16日(土)・17日(日)

会場：京都市勧業館(みやこめっせ)等

動員数：438,296名(うちオンライン視聴者数：402,693名)

内容：マンガ・アニメを活用した新たなビジネスの創出支援、クリエイターの育成支援・雇用機会の創出、若者・外国人をはじめとした新たな観光客の掘り起こし、マンガ・アニメ文化の海外発信によるコンテンツ都市・京都のブランド向上など、京都市におけるコンテンツ市場の振興を図るため、西日本最大規模のマンガ・アニメの総合見本市を開催した。



●マンガ・アニメイベント

開催日：9月16日(土)・17日(日)

会場：京都市勧業館(みやこめっせ)／ロームシアター京都 他 ※京まふ会場で実施

動員数：412,159名(うちオンライン視聴者数：402,693名)

内容：人気声優等のトークイベントやアニメ上映会など、出展者によるステージイベントを実施した。今年度は、人気作品によるステージイベントのオンライン配信視聴者数が非常に多かった。また、和装振興の一環として多くのステージ登壇者に着物を着用いただいた。

●マンガ出張編集部

開催日：11月18日(土)・19日(日)

会場：京都国際マンガミュージアム 多目的映像ホール

出展数：46編集部

持込者：138名(2日間合計)

内容：首都圏を中心とした出版社のマンガ編集部を招き、マンガ家志望者が原稿を持ち込んで添削やアドバイスを受けられる場を創出した。

●京都国際マンガミュージアムイベント

開催日：6月17日(土)～10月3日(火)

会場：京都国際マンガミュージアム

内容：画業50年の節目を迎えたマンガ家・村上もとか氏の展覧会を開催。総計約330点の原画を展示したほか、9月16日には、村上もとか先生による講演会&サイン会も実施した。

●京都国際クリエイターズアワード

応募×切：コミックコンテスト 8月31日(木)まで

CGアニメコンテスト 7月31日(月)まで

※いずれも日本時間

応募総数：1,010作品(※75の国と地域から応募あり)

コミックコンテスト 831作品

CGアニメコンテスト 179作品

内容：クリエイター志望者が、京都を通じてプロデビューする機会を創出するための国際コンテスト。「京都国際マンガ・アニメ大賞」をリニューアルし、コミックコンテストでは、新たにストーリー、作画、コマ割りといった、近年増えつつある分業制でのマンガ制作にも対応した内容で表彰し、より実効性を高めて、多彩な才能を持ったクリエイターの発掘・育成につなげていくためのコンテストを開催した。



コミックコンテスト
優秀賞
『あなたのそばの
怪異駆除屋』

オフィシャルイベント

KYOTO CMEX 2023

KYOTO CMEX

●滞在型ワークショップ「Field KYOTO」

開催日：11月18日(土)・19日(日)

会場：妙心寺壽聖院／松竹撮影所／京都伝統産業ミュージアム ほか

参加者：25名

内容：京都を題材とした創作活動に資する知識の習得や体験を行いながら、京都を題材とした作品企画に繋がる滞在型ワークショップを実施した。

ゲーム

●BitSummit Let's Go !!

開催日：7月14日(金)～16日(日)

会場：京都市勧業館「みやこめっせ」3階 第3展示場

来場者：23,789名

動画視聴数：2,181,593回

内容：日本のインディーゲームを国内外のゲームファンやメディアに広く発信し、ゲーム分野だけでなく異分野の企業・人々との新たなビジネスマッチングを図り、インディーゲーム市場の活性化やゲームによる産業振興を図った。

出展チーム：95チーム(国内48チーム、海外47チーム)

学生ゲームジャム：19チーム(264名)が参加。

最優秀作品 Team12『Home To Hope』には東京ゲームショウでの出展権付与



メタバース

●京都館 PLUS X

内容：インターネット上の仮想空間に開設した京都市の新たな情報発信の拠点として、京まふやSNSのインフルエンサーと連携するなど、京都をより身近に感じていただける情報発信を実施した。

Rakuten Fashion Week TOKYO 2024 S/S・A/W

Rakuten
Fashion Week TOKYO
Rakuten

会 期：2024 S/S：2023年8月28日（月）～9月2日（土） 2024 A/W：2024年3月11日（月）～16日（土）
 会 場：渋谷ヒカリエ・表参道ヒルズ 他
 主 催：（一社）日本ファッション・ウィーク推進機構
 後 援：経済産業省／外務省／知的財産戦略本部／（独）日本貿易振興機構／（独）中小企業基盤整備機構／東京都／
 （一社）日本経済団体連合会／日本商工会議所／東京商工会議所／（一財）日本ファッション協会／
 （一社）日本アパレル・ファッション産業協会／（一財）ファッション産業人材育成機構／（一社）日本百貨店協会／
 渋谷区／渋谷区商店会連合会／日本ジーンズ協議会
 協賛／連携：TITLE SPONSOR：楽天グループ(株)
 OFFICIAL SPONSOR：旭酒造(株)
 SPECIAL SUPPORTING PARTNERS：東急(株)／渋谷ヒカリエ
 SUPPORTING PARTNERS：東レ(株)／(株)オンワードホールディングス／(株)TSIホールディングス／
 伊藤忠商事(株)／(株)アダストリア／(株)ワールド／ニッケ（日本毛織(株)）／
 スタイルム瀧定大阪(株)／瀧定名古屋(株)／(株)そごう・西武／
 (株)大丸松坂屋百貨店
 公式サイト URL：https://rakutenfashionweektokyo.com/jp/
 : https://rakutenfashionweektokyo.com/en/



出展社数：
 2024 S/Sシーズン 50 ブランド（フィジカル：35ブランド デジタル：15）
 2024 A/Wシーズン 43 ブランド（フィジカル：35ブランド デジタル：8）

■開催内容

「Rakuten Fashion Week TOKYO」は、（一社）日本ファッション・ウィーク推進機構（以下JFWO）が主催し、毎年2回開催しているファッションの祭典であり、渋谷ヒカリエと表参道ヒルズを公式会場に、その他東京各所から世界で注目される最新の日本のクリエイションを発信。Rakuten Fashion Week TOKYO2024は「OPEN,FASHION WEEK」を年間テーマに設定。「OPEN,FASHION WEEK」にある「OPEN」とは、外との交流だけでなく、個々の価値観、表現、マインドの解放も表しており、社会、世界がダイナミックに動き始めている状況もふまえ、2024シーズンを通して、リアルイベントやデジタル上での交流・拡散など、多くの場面で“OPEN”を創出していきたいという想いから設定された。

2024S/Sでは、そのテーマを象徴するように、一般のお客様が誰でも参加できる前夜祭を開催し多くの方にファッションウィークの始まりを感じていただく機会を創出した。前シーズンより開始した「世界に向けた新人デザイナーの登竜門」を通して、今後グローバルにファッション業界で活躍が見込める新しい才能を育成・支援していくことを主旨としたJFWOによるブランド支援プログラム「NEXT BRAND AWARD」を受賞した「KANAKO SAKAI」がS/Sシーズンのオープニングを飾り、あわせてオープニングセレモニーを行った。公式スポンサー旭酒造(株)の「獺祭」を手に乾杯の発声でシーズンが幕開けするパンデミック時には見られなかった開放的なシーンを演出した。A/Wシーズンでも、公式メディアとのコラボによる一般客のショー招待や一般参加可能なショー、インスタレーション、イベントを同時に開催し、これまで業界・顧客むけのクローズドなイベントだったファッション・ウィークを、より一般の方に知っていただくことを意識したイベントとなった。



■2023年度の新規取り組みとその成果・特色など

2024シーズンは、昨今アパレル業界でもその技術に注目が集まるAIとの取り組みを実施。S/Sシーズンでは、3DCGで作成されたキービジュアルのモデルに、画像生成AIにより自分の顔をはじめ込むことができるコンテンツを発信。続くA/WシーズンではフルAIによるキービジュアルの生成に取り組んだ。ビジュアル上に表現されたモデルの顔は、実在するモデルの顔学習を行い生成したものであり、AIと人間との共創という新しい価値づくりを目指した。また、同シーズンでは関連イベントとして「TOKYO AI Fashion Week」を初開催。画像生成AIにより創られたファッションデザインのコンテストとして注目を集めた。ファッション業界においてAIは人間の仕事を奪うものというネガティブな声も聞こえてきているが、日々進む技術の進歩を受け入れ、人間とAIとの共同作業でこれまでにないクリエイティビティの可能性を模索するというあり方を示した。

■他イベントや非コンテンツ企業との連携事例などの実施事例、件数や成果

その他関連イベント

- ・ TOKYO FASHION AWARD 2024 WINNERS' EVENT
- ・ FASHION PRIZE OF TOKYO 2024 WINNERS' EVENT
- ・ TOKYO CREATIVE SALON 2024
- ・ TOKYO AI Fashion Week



オフィシャルイベント

CEATEC 2023(シーテック 2023)

CEATEC® 2023
TOWARD SOCIETY 5.0

会 期：2023年10月17日(火)～20日(金)
会 場：幕張メッセ
主 催：(一社)電子情報技術産業協会(JEITA)
共 催：(一社)情報通信ネットワーク産業協会(CIAJ)／(一社)ソフトウェア協会(SAJ)
後 援：総務省／経済産業省／国土交通省／デジタル庁

(独)日本貿易振興機構(ジェトロ)／(国研)新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)／
(国研)産業技術総合研究所(AIST)／(国研)情報通信研究機構(NICT)／
(独)情報処理推進機構(IPA)／(独)中小企業基盤整備機構／千葉県／千葉市／
日本放送協会(NHK)／(一社)日本民間放送連盟／(一社)日本経済団体連合会／
日本商工会議所／東京商工会議所／
在日アメリカ合衆国大使館商務部／駐日アラブ首長国連邦大使館／
駐日英国大使館 ビジネス・通商部／
カナダ大使館内オンタリオ州政府在日事務所／デンマーク王国大使館／
在日フランス大使館貿易投資庁-ビジネスフランス／
フィンランド大使館 商務部／在日ウクライナ大使館

対 象：ITエレクトロニクスを活用するビジネスユーザおよび関連するコンシューマ
公式サイト URL：<https://www.ceatec.com/>

総来場者数(参加数)：89,047人(昨年対比109%)

内訳：(国内入場者数(参加数)：72,539人 海外入場者数(参加数)：974人)、
その他出展者等

出展社数：684社(昨年対比122%)

内訳：(国内出展社数：489社 海外出展社数：195社)

出展参加国と地域数：21の国と地域

プレス社数：643名

■開催内容

CEATEC 2023は、展示を「見て」、コンファレンスを「聴いて」、未来の社会を「感じて」「考えて」、共創に向けて「動き出す」ことを指す「CEATEC体験」による新しい形の「デジタルイノベーションの総合展」を志向し、イノベータのための共創の場として展開。オンラインでの開催とともに幕張メッセでの4日間の開催を無事終了した。

■2023年度の新規取り組みとその成果・特色など

●4年ぶりの大規模カンファレンス

オンラインセッションに加え、幕張メッセ国際会議場での「CEATEC CONFERENCE」を4年ぶりに開催。産学官民のそれぞれのトップランナーやキーパーソンがパネルディスカッションを中心に参画。展示会場内でも電子部品関連企画ステージや次世代をテーマにしたステージプログラムを新たに展開した。

●デジタル田園都市国家構想特設パビリオン

「心ゆたかな暮らし」と「持続可能な環境・社会・経済」を実現するデジタル田園都市国家構想をテーマとして、新たにデジタル田園都市国家構想特設パビリオンを展開した。

●環境配慮

- CEATEC会場内に設置するラウンジや受付ブース、各特設ステージは再利用が可能なシステムパネルを使用。
- 会場図は紙配布を実施せず、ウェブサイトからPDFをダウンロードする形とした。
- 案内状などの印刷物には、FSC認証紙を採用、また封筒にはバイオマス由来樹脂などを使用した。
- バッジケースを回収し(計0.2トンほど(約2.7万人分))再資源化した。
- 展示会場内ラウンジや受付などにグリーン電力を使用、風力、太陽光発電など自然エネルギーを使用した。(15,000kWh相当)

■他イベントや非コンテンツ企業との連携事例などの実施事例、件数や成果

- ResorTech EXPO in Okinawaと連携し、お互いの展示会にてブース出展実施。



国際ドラマフェスティバル in TOKYO 2023
(東京ドラマアワード2023)



会 期：2023年10月24日(火)
 会 場：東京プリンスホテル
 主 催：国際ドラマフェスティバル in TOKYO 実行委員会
 (構成団体) 日本民間放送連盟/TBSテレビ/日本テレビ放送網/
 テレビ朝日/フジテレビジョン/テレビ東京/WOWOW/日本放送協会/
 日本映画製作者連盟/松竹/東宝/東映/KADOKAWA/
 日本音楽事業者協会/実演家著作権センター/
 全日本テレビ番組製作社連盟/日本映画テレビプロデューサー協会
 後 援：総務省/経済産業省
 協 賛：(株)電通/(株)博報堂DYメディアパートナーズ
 対 象：業界関係者
 公式サイト URL：https://www.j-ba.or.jp/drafes/

総来場者数(参加数)：300人
 プレス社数：48社
 内訳(国内プレス社数：48社 海外プレス社数：0社)

■開催内容

◆「東京ドラマアワード2023」授賞式

- ・司 会：石坂浩二(俳優)、市来玲奈(日本テレビアナウンサー)
- ・登壇者：小栗旬、川口春奈、目黒蓮、夏帆、木南晴夏、永尾柚乃、上坂樹里、バカリズムほか

●受賞作品

作品賞<連続ドラマ部門>

- グランプリ 『ブラッシュアップライフ』日本テレビ放送網
- 優秀賞 『鎌倉殿の13人』日本放送協会
- 優秀賞 『星降る夜に』テレビ朝日
- 優秀賞 『silent』フジテレビジョン
- 優秀賞 『エルピスー希望、あるいは災い』関西テレビ放送
- 優秀賞 『フェンス』WOWOW

作品賞<単発ドラマ部門>

- グランプリ 『TOKYO MER～走る緊急救命室「隅田川ミッション」』TBSテレビ
- 優秀賞 『未解決事件 File.09 松本清張と「小説 帝銀事件」』日本放送協会
- 優秀賞 『生理のおじさんとその娘』日本放送協会
- 優秀賞 『神の手』テレビ東京
- 優秀賞 『監察医 朝顔 2022スペシャル』フジテレビジョン
- ローカル・ドラマ賞 『弁当屋さんのおもてなし』北海道テレビ放送

■2023年度の新規取り組みとその成果・特色など

2019年以来4年ぶりに来場者数に制限を設けず、多くの放送局関係者や業界関係者が出席のうえ開催。

今年度の新たな取り組みとして、国際コンテンツ見本市「MIPCOM」の公式イベントである「MIPCOM Buyers' Award for Japanese Drama」(※)の受賞作品を紹介。本アワードの審査員を長年務める海外バイヤーら3名を招聘し、受賞作品に対する評価に加え、日本ドラマへの期待など制作者に向けたメッセージも発信された。

(※)「MIPCOM Buyers' Award for Japanese Drama」は、国際ドラマフェスティバル in TOKYOとMIPCOMの連携事業の一つであり、MIPCOM公式イベントとして2009年から実施している。ノミネートされた日本のドラマ作品の中から、海外バイヤーが「自分のマーケットで紹介したい」「自分が買いたい」という作品を選出する。



開会宣言



司会



フォトセッション



連続ドラマグランプリ
『ブラッシュアップライフ』



単発ドラマグランプリ
『TOKYO MER～走る緊急救命室「隅田川ミッション」』

オフィシャルイベント

第50回 日本賞 教育コンテンツ国際コンクール

JAPAN PRIZE 2023

会 期：2023年11月20日(月)～23日(木)
会 場：WITH HARAJUKU HALL
主 催：日本放送協会
対 象：国内外を問わず、教育に関心のあるすべての人々
公式サイト URL：https://www.nhk.or.jp/jp-prize/

総来場者数(参加数)：2,044人
内 訳：(国内入場者数(参加数)：1,352人 海外入場者数(参加数)66人 オンライン参加：692人)

■開催内容

NHKが主催する、教育をテーマにした番組や映像作品などの国際コンクール「日本賞」。第50回を迎えた今年は、11月20日(月)～23日(木)、東京・原宿のWITH HARAJUKU HALLを会場に「日本賞映像祭」を開催、セッションの生配信あるいはオンデマンド配信も行った。今年は、最優秀賞・優秀賞などコンクールの結果を事前に発表。海外から受賞者を招いたこともあり、44の国と地域からの参加があった。さらに番組制作者をはじめ、教育コンテンツに関心を持つ方も多く参加し、総来場者数2,044名(リアル参加1,352名、オンライン参加692名)と大盛況であった。

20日に行った開会式には、秋篠宮皇嗣殿下にご出席いただき、今年の幼児向け・児童向け・青少年向け・一般向けの各部門の最優秀賞・優秀賞、さらに特別賞などの表彰を行った。今年の「日本賞映像祭」の軸となったのは、「上映会&ディスカッション」。各部門最優秀賞および優秀賞作品を上映した後は、参加者同士でのディスカッション、続けて受賞作品の制作者と審査員が登壇。制作者は作品が生まれたきっかけや制作秘話を語り、審査委員は作品の評価ポイントについて述べた。参加者を含め、闊達な議論が行われ、活況を呈した。

また、予算・機材など制作条件が十分でない国・地域における教育番組の企画の実現を支援する「企画部門」ではモンゴル・ウクライナなど6か国の制作者たちがプレゼンテーションを行ったほか、第50回記念セッション「教育メディアの力を信じて」では、日本賞の歴史を振り返り、教育メディアに与えてきた影響や、時代を越えて受け継がれてきた価値、未来に向けた展望や課題について話し合った。

23日の最終日の授賞式では、各部門の最優秀賞4作品の中から選ばれた「グランプリ日本賞」と企画部門の最優秀賞・優秀賞を発表。今年の「グランプリ日本賞」には、イスラエル人監督とパレスチナ人プロデューサーの共同作品、ヨルダン川西岸地区でイスラエル軍によって逮捕される少年たちの姿を追ったドキュメンタリー「トゥー・キッズ・ア・デイ」が選ばれた。

■2023年度の新規取り組みとその成果・特色など

これまでは、最優秀賞などの賞の発表を映像祭の最終日の授賞式で発表してきたが、2023年度はグランプリ日本賞と企画部門の最優秀賞・優秀賞以外は事前に発表。受賞者を東京にお招きし、受賞作品の上映会とディスカッションを開催した。上映後のディスカッションでは、制作者と参加者がくるま座になって感想や意見を述べ合い、多様な視点を共有することができた。続いて受賞者と審査委員がステージに上がり、作品が生まれた背景や制作上の挑戦、さらには審査を行う上での評価ポイントについて語った。このやり方により、受賞者と参加者が語り合い、多様な意見の交流を通じて学び、教育コンテンツの向上を目指すヒントを得られたのではないかと考える。参加者の満足度も高く、アンケートでは94.6%の参加者から「満足した」という回答が得られた。



Tokyo Docs 2023



会 期：10月30日(月)～11月1日(水)(リアルイベント)、
11月2日(木)～6日(月)(オンラインミーティング)
会 場：秋葉原UDX(東京都千代田区外神田4丁目14-1)
メイン会場：4Fシアター／サブ会場：4FNext-1、Next-2
主 催：(特非)Tokyo Docs
共 催：(一社)全日本テレビ番組製作社連盟
後 援：総務省／経済産業省／東京都／(独)国際交流基金／日本放送協会(NHK)／
(一社)日本民間放送連盟(民放連)／(特非)放送批評懇談会／(一社)放送人の会／
(一社)全国地域映像団体協議会(全映協)／(公社)映像文化製作者連盟(映文連)
助 成：JLOX
対 象：放送関係者、一般、学生など
公式サイト URL：<https://tokyodocs.jp/>



ピッチング・セッションの様子



参加ゲスト

総来場者数(参加数)：319人(昨年比+83)
内 訳：(国内入場者数(参加数)：290人 海外入場者数(参加数)：29人+オンライン参加3人)
ピッチ企画・作品数：19企画・6作品
内 訳：(国内企画・作品数)：9企画・5作品 海外出展社数：10企画・1作品)
出展参加国と地域数：11の国と地域
ディビジョン・メーカー数：30人
内 訳：(国内：11人 海外バイヤー：19人)
商談件数：251件



受賞者記念写真



ゲスト集合写真

■開催内容

Tokyo Docs 2023は13回目を迎え、4年ぶりに海外よりゲストを招いての開催となった。海外からは11カ国・地域より19名の放送局プロデューサーや配信プラットフォーム、配給会社、製作会社から成るディビジョン・メーカーが来日し、国内は11名の放送局や配信プラットフォームが参加した。10月30日～11月1日までは秋葉原UDXの会場を使い、その後11月2日～6日まではオンラインミーティングを実施した。メインとなる提案企画会議、いわゆるピッチング・セッションでは、海外から10企画・1作品、国内から9企画・5作品が、上映・プレゼンテーションを行いました。

30日と31日は、番組企画19本のピッチング・セッション「メインピッチ」をUDXシアターの会場にて実施した。ピッチング・セッションでは、15分の持ち時間の中で、3分間の企画説明動画の上映、トレーラーの上映とプレゼン、そのあとに続きディビジョン・メーカーとのQAセッションという、国際スタンダードとなっている一連の流れで執り行われた。11月1日に行われた短編作品のピッチング「ショート・ドキュメンタリー・ショーケース」では、10分の短編作品の上映後に3分程度の監督によるプレゼンを行い、そのあとにディビジョン・メーカーとのQAセッションを行った。最終日のAward Ceremonyでは、ピッチングを行った企画や作品の中から、ディビジョン・メーカーの投票による受賞作品が発表された。最優秀企画賞には、徳島県の藍染め職人と色弱の同僚を追った作品と、中国の少数民族の少女の成長を描く作品が選ばれた。

また開催期間中には、企画・作品提案者とディビジョン・メーカーとの商談会「個別ミーティング」が会議室で行われ、資金・共同制作者などの調達に向けた最初の話合いが行われた。1回15分枠で設定され、3日間で251件もの商談が行われた。今回のために開発したシステムが効率的なマッチングに大きく貢献した。

さらに、長編・短編作品の上映会が開催された。これはドキュメンタリーファンの拡大を目的とするもので、2017年に最優秀企画賞を受賞した「アダミアニ 祈りの谷」や、過去Tokyo Docsでピッチした6作品が上映された。

Tokyo Docsでは人材育成・企画開発にも力を入れている。今年はPaul Pauwels氏のもとトレーニングを実施した。9月にはピッチングスキルを磨く合宿を葉山で行い、合宿を通して各自が自分の企画と向き合うことでレベルアップを果たした。

■2023年度の新規取り組みとその成果・特色など

コンテンツをプロモーションするうえで、より影響力のあるメディア関係者を招聘することに注力した。特に今回はBBCやARTEのような長編ドキュメンタリーの世界で影響力の大きいゲストや、New York Timesなど短編を含む幅広いドキュメンタリーに関心を持つゲストを招聘することができた。

■他イベントや非コンテンツ企業との連携事例などの実施事例、件数や成果

- ・フランスのSunny Side of the Docと、インドのDocedgeKolkataから、日本の企画に対してそれぞれのイベントに参加できる賞を授与された。
- ・大和証券グループ本社、LINEヤフーと連携し、特にショート・ドキュメンタリー・ショーケースの実施に強力な支援を得た。

オフィシャルイベント

Inter BEE 2023

Broadmedia & Entertainment

Inter BEE 2023

会 期：幕張メッセ会場：2023年11月15日（水）～17日（金）
オ ン ラ イ ン：2023年11月6日（月）～12月15日（金）
会 場：幕張メッセ／オンライン
主 催：（一社）電子情報技術産業協会
共 催：第60回民放技術報告会／全映協フォーラム 2023 in 幕張
後 援：総務省／経済産業省（建制順）／NHK／（一社）日本民間放送連盟（JBA）／（一社）電波産業会（ARIB）／
（一財）デジタルコンテンツ協会（DCAJ）／（一社）放送サービス高度化推進協会（A-PAB）
対 象：映像・音響制作者、放送事業者、及び、インターネット・通信・照明・舞台・エンタメ・メディアビジネス関係者
公式サイト URL：https://www.inter-bee.com/

総来場者数（参加数）：31,702人（幕張メッセ会場）
内 訳：（国内入場者数（参加数）：30,927人 海外入場者数（参加数）：775人）
13,992人（幕張メッセ会場）
内 訳：（国内入場者数（参加数）：13,839人 海外入場者数（参加数）：153人）

出展社数：1,005社
内 訳：（国内出展社数：477社 海外出展社数：528社）
出展参加国と地域数：38の国と地域
プレス社数：253社

■開催内容

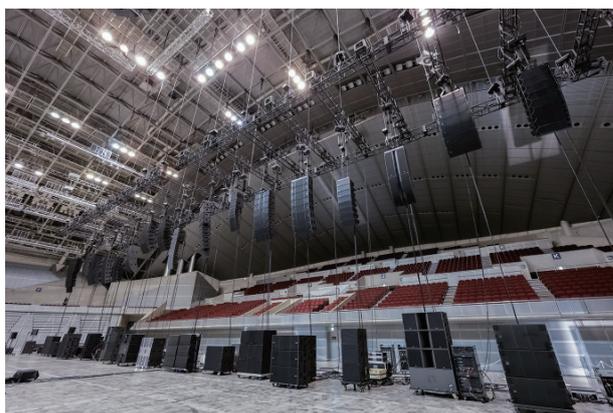
今回で59回目の開催となるInter BEEは、「コンテンツ」を中核とし、コンテンツを「つくる（制作）」、「おくる（伝送）」、「うける（体験）」の全てを網羅したメディア総合イベントとして、大規模な幕張メッセでの会場展示会を中心に据え、オンラインと連動した開催となった。オンライン会場では、出展各社による展示製品／サービスの紹介や映像配信を行い、幕張メッセ会場の会期終了後は、アーカイブデータ配信期間とした。

本年の出展者数は1,005社／団体（うち海外38カ国・地域／528社）、幕張メッセ会場の登録来場者数は31,702名、オンライン会場の登録来場者数は13,992名と総来場者数はおよそ45,000名の開催規模となった。

本年は幕張メッセ会場において基調講演をはじめ、特別講演や企画セッションなどを実施。国際会議場では、Opening & Keynoteを皮切りに「INTER BEE FORUM 基調講演／特別講演」と併せて4つの特別企画を実施した。

プロフェッショナルユースのヘッドフォンとマイクロフォンを聴き比べし、各社の特長が実感できる人気企画展示「INTER BEE X-Headphone | X-Microphone」が4年ぶりに復活。また、国内最大のSRスピーカー試聴イベント「INTER BEE EXPERIENCE X-Speaker」をイベントホールにて3日間開催し、音響関連業界のみならず幅広くメディア・エンターテインメント業界の多くの関係者が来場した。

その他の特別企画において、「INTER BEE BORDERLESS」では、放送と通信の融合が現実化し、多様なビジネスの可能性が膨らむ現代において、新たな進化に向けた新規取り組みや更なる課題が発見できる場として展開した。「INTER BEE IGNITION × DCEXPO」では、劇的な変化を遂げるAI技術や先端コンテンツ技術、先進映像技術を発信し、メディア・エンターテインメント産業の未来と可能性を追求すると共に、革新的なイノベーションに挑戦するスタートアップエリアを新たに設け、産業に変革を起こすパートナーとの出会いの場が実現した。「INTER BEE CREATIVE」では、映像制作のプロフェッショナルに向けた最新制作ツールと活用テクニックの提案や映像作品事例等を展示とプレゼンテーションで発信。また、動画マーケティング分野に特化した制作会社やクリエイターとマーケッターや広報担当者が交流できる新規ラウンジを設立し、賑わいを見せた。「INTER BEE IP PAVILION」では、40の企業／団体が協力しMedia over IP 技術をフルに活用した複数の放送局と外部のデータセンターとの連携デモ環境を構築した。



Inter BEE 2023

Broadmedia & Entertainment
Inter BEE 2023

■ 2023 年度の新規取り組みとその成果・特色など

- ・加速するメディアとエンターテインメントの進化、テクノロジーの時流を捉え次のステージへと進むべく、「エンターテインメント/ライティング部門」(旧「映像表現/プロライティング部門」)、「メディア・ソリューション部門」(旧「ICT/クロスメディア部門」)と2つの出展部門の名称変更
- ・映像ワールドへの入り口コース、バーチャルスタジオ入門コース、カメラ・レンズ 徹底網羅コースの3つを設定し出展各社を見学する学生向けツアーの実施
- ・特別企画「INTER BEE IGNITION × DCEXPO」内に、新たなテクノロジーやビジネスと創造性の発見や産業界とのコラボレーション、共創の場として「INTER BEE IGNITION × DCEXPO スタートアップエリア」を新規設立
- ・特別企画「INTER BEE CREATIVE」内に、映像・動画関連産業の裾野拡大と市場の発展を支援する場として「INTER BEE CREATIVE 動画マーケティングラウンジ」を新規設立
- ・放送と通信の融合化を終え放送ビジネスの未来を描くべく、特別企画「INTER BEE BORDERLESS」(旧「INTER BEE CONNECTED」)へ名称変更

■ 他イベントや非コンテンツ企業との連携事例などの実施事例、件数や成果

第60回民放技術報告会
全映協フォーラム 2023 in 幕張



オフィシャルイベント

INTER BEE IGNITION × DCEXPO

INTER BEE IGNITION × DCEXPO

会 期：幕張メッセ会場：11月15日（水）～17日（金）、オンライン会場：11月6日（月）～12月15日（金）

会 場：幕張メッセ、オンライン

Inter BEE主催：（一社）電子情報技術産業協会

Inter BEE運営：（一社）日本エレクトロニクスショー協会

INTER BEE IGNITION × DCEXPO共同運営：（一財）デジタルコンテンツ協会

対 象：XR（VR/AR）、CG、3D映像／音響、人工知能（AI）、メタバース、ブロックチェーン、超臨場感映像、プロジェクションマッピング、ドローン、ロボティクス、インタラクティブシステム、モーションシステム、メディアアート、その他先進映像表現技術、4K/8K プロジェクタ、デジタルサイネージ、ライブエンターテインメントテクノロジー、空間演出、演出用特機、照明システム、ビックデータ、クラウド、IoT、その他表現・体験技術

公式サイト URL：<https://www.inter-bee.com/ja/forvisitors/conference/ignition/>

出展社数：47社

内訳：（国内出展社数：45社 海外出展社数：2社）

出展参加国と地域数：2つの国と地域

■開催内容

デジタルコンテンツEXPO（DCEXPO）は、先端技術とコンテンツをテーマにした国際イベントとして、コンテンツ産業のイノベーションの促進に貢献し、INTER BEE IGNITIONは、拡張するメディアとエンターテインメント世界における先進映像表現技術の可能性を発信してきた。コンテンツ産業とエンターテインメント産業におけるイノベーション＆ビジネスの最前線への進化を目指し、日本の先進映像技術や先端コンテンツ制作技術をより広く発信するため、2022年よりDCEXPOとINTER BEE IGNITIONは融合し、「INTER BEE IGNITION × DCEXPO」として実施した。幕張メッセでの技術の体験展示やステージイベント、VR体験のほか、テーマに沿ったコンファレンスをオンラインや幕張メッセ国際会議場で開催し、国内外の登壇者が最新の情報を発信した。

■2023年度の新規取り組みとその成果・特色など

基調講演では、Metaリアリティ・ラボ・リサーチのVRデバイス開発者Dr. Yang Zhaoが登壇し、東京大学教授であり長年バーチャルリアリティや人間拡張工学等の研究に携わる稲見昌彦氏と対談した。モデレーターには、奈良先端科学技術大学院大学教授 清川清氏を迎え、HMDの進化がVRの未来をどのように変えていくのか、新しいテクノロジーが拓く可能性が語られた。また企画セッションでは、AI、メタバース、Web3、XRなど、先進的なコンテンツ技術やヴィジュアルテクノロジーの視点でこれからの社会とビジネスを考えるセッションが多数実施され、Vライバーがスタートアップを紹介するセッション等も注目を集めた。また2023年は初の試みとして「スタートアップエリア」を設置。21社のスタートアップが出展し、活発に意見交換やマッチングを行う様子が見られた。経済産業省がスタートアップの海外展開を支援する「TechBiz：Technology Business Acceleration Program」では8件の採択技術を展示し、様々な来場者とのマッチングが行われた他、革新的なコンテンツ技術を表彰する「Innovative Technologies 2023」もブースを出展し、話題を呼んだ。基調講演に登壇したMeta社は、日本初の「Butterscotch Varifocal」（VR/MRの新プロトタイプ）のデモを出展し、多くの来場者を集めた。また会期2日目には、ステージにて「スタートアップネットワーキングレセプション」を実施、オープンマイクの形式で多数のスタートアップがピッチで自社の製品やサービスをアピールし、積極的なネットワーキングが行われた。

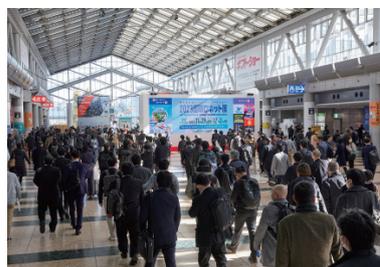


2023国際ロボット展
[INTERNATIONAL ROBOT EXHIBITION 2023 (iREX2023)]

2023国際ロボット展
 INTERNATIONAL ROBOT EXHIBITION 2023

iREX[®]
 2023
 INTERNATIONAL ROBOT EXHIBITION

会 期：【リアル会場】 2023年11月29日(水)～12月2日(土) 10:00～17:00
 【オンライン会場】 2023年11月22日(水)～12月15日(金)
 会 場：【リアル会場】 東京ビッグサイト 東1～8ホール、西3・4ホール
 【オンライン会場】 オンライン上
 主 催：(一社)日本ロボット工業会／日刊工業新聞社
 後 援：経済産業省／厚生労働省／農林水産省／国土交通省／総務省／文部科学省／
 日本商工会議所／新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO)／
 日本貿易振興機構 (JETRO)／日本放送協会 (NHK)
 対 象：ロボットに興味があるすべての方
 公式サイト URL：<https://irex.nikkan.co.jp/>



総来場者数 (参加数)：148,125人 (2022年：62,388人)
 内訳：(国内入場者数 (参加数)：139,090人 海外入場者数 (参加数)：9,035人)
 ビジネスエリアの来場者数 (参加数)：上に同じ
 出展社数：654社・団体
 内訳：(国内出展社数：533社 海外出展社数：121社)
 出展参加国と地域数：17の国と地域
 バイヤー数：不明
 内訳：不明
 商談件数：相当数
 成約金額：不明
 プレス社数：116社



■開催内容

国際ロボット展は1974年の初開催以降、隔年で開催し、今年で25回目を迎えた。近年では“世界最大規模のロボット専門展”として、国内外から高く評価されている展示会で、世界中のロボット関係者やユーザーが集う2年に一度のイベントである。

「2023国際ロボット展」は、人とロボットの共存・協働によるSDGsの達成を目指し、「ロボティクスがもたらす持続可能な社会」をテーマに開催した。会期中は、国内外の最先端のロボットやAI・ICT・要素技術などロボットに関わる高度な技術が一堂に展示された。近年のロボット利活用への広がりを受け、BtoBの枠だけでなくBtoC要素も成長を続けている。

メインステージでは経済産業省やNEDO、IFRといった団体の登壇はもちろん、「機動戦士ガンダム」「スマート農業」「大阪万博」「生成AI」といった話題性のあるテーマを核にプログラムを実施した。



■2023年度の新規取り組みとその成果・特色など

日本未来科学館と連携したスペシャル展示企画や、SDGsを意識した大手ロボットメーカー合同展示などはもちろん、デジタルハリウッド大学とコラボレーションしたPRムービーコンテストでは多くの学生から応募があり、入賞作品はTVCMなどでも放映された。

土曜日限定企画「つくる☆される国際ロボット展」では質・量ともに強化し多くの若年・ファミリー層から反響があった。

また前回(2022年)開催では新型コロナウイルス感染症の影響で海外来場者が減少傾向にあったため、改めて海外来場誘致施策を強化し、OverseasLoungeを設置するなど、国際展としての認知向上にも努めている。



オフィシャルイベント

東京アニメアワードフェスティバル2024



会 期：2024年3月8日(金)～11日(月)
会 場：池袋シネマ・ロサ／池袋HUMAXシネマズ／グランドシネマサンシャイン 池袋／シネ・リーブル池袋／
TOHOシネマズ 池袋／Mixalive TOKYO B2F Hall Mixa／animate hall WHITE／オトメイトビル6F オトメイトスクエア／
サンシャインシティ 噴水広場(アルパB1)／サンシャイン水族館／東京建物 Brillia HALL パークプラザ／
としま区民センター／WACCA 池袋
主 催：東京アニメアワードフェスティバル実行委員会／(一社)日本動画協会
共 催：東京都
特別協賛：豊島区
協 力：アニメーション美術家連盟／CG-ARTS ((公財)画像情報教育振興協会)／日本アニメーション協会／
(一社)日本アニメーター・演出協会／(一社)日本音声製作者連盟／(協組)日本脚本家連盟
後 援：(独)国際交流基金／日本アニメーション学会／日本映像学会／(独)日本貿易振興機構／(公社)日本漫画家協会／文化庁／
(公財)ユニジャパン
対象：プログラムによって異なる
公式サイト URL： <https://animefestival.jp/ja/>
<https://animefestival.jp/en/>

総来場者数(参加数)：18,239人 ※プレイベント・オンライン視聴者含む
プレス社数：32社
内訳(国内プレス社数：30社 海外プレス社数：2社)

■開催内容

「東京アニメアワードフェスティバル(TAAF)」は、クリエイター、アニメーション関係者、ファンが一体となる日本を代表する国際アニメーション映画祭である。

新たな人材の発掘・育成、アニメーション文化と産業の振興に寄与すること及び、東京の魅力を発信し、東京の観光振興に資することを目的とし、『東京がアニメーションのハブになる』を合言葉に、高いクオリティとオリジナリティに富む世界中の作品を東京で上映し、世界中のアニメーションを愛する人々との交流を図り、クリエイターや観客に刺激と感動を提供し、そしてその感動や刺激を糧にアニメーションの新たな波を東京から世界へ発信する。

TAAFは、アニメーション作品とその制作者に栄誉を与えることで、世界中のアニメーション制作に携わるみなさんに勇気を与えられるようなフェスティバルでありたいと願っている。

日本国内で未興行の世界のアニメーション作品を対象にした「コンペティション部門」、日本国内で発表されたアニメーション作品を対象とした「アニメ オブ ザ イヤー部門」、アニメーション業界に貢献された方々を顕彰し、先人達の歴史、技術、生き様を伝える「アニメ功労部門」、を中心とした上映の他に、トークショー、シンポジウム、子ども向けワークショップ等を実施した。



オープニングセレモニー



授賞式

東京アニメアワードフェスティバル2024



■ 2023年度の新規取り組みとその成果・特色など

学生や教育機関からの参加を増やすべく、以下のような企画を実施

- ・「学生作品上映会」：アニメーション関連教育機関より学生の作品を集めて無料上映を行った。初実施にもかかわらず、84作品の参加があった。
- ・「ポートフォリオの作り方」：ポートフォリオに必要な要素を、第一線で活躍するプロデューサーやアニメーターが解説するセミナー。また、セミナー後には登壇者によるポートフォリオチェックの時間も設けた。

■ 他イベントや非コンテンツ企業との連携事例などの実施事例、件数や成果

- ・「インター・カレッジ・アニメーション・フェスティバル」との連携を続けており、上映企画を行った。
- ・「アニメーション・クリエイティブ・テクノロジー・フォーラム (ACTF)」との連携企画として、ウェビナー及びアニメーション制作関連の展示事業を行った。
- ・「CG-ARTSアニメーション実技試験」との連携企画として特別プログラムを行った。
- ・「学生CGコンテスト」との連携企画として特別プログラムを行った。
- ・「アニメータードラフト会議」との連携企画として特別プログラムを行った。
- ・「アニメ オブ ザ イヤー部門」にて、アニメーション美術家連盟、(公財)画像情報教育振興協会 (CG-ARTS)、(一社)日本アニメーター・演出協会、(一社)日本音声製作者連盟、(協組)日本脚本家連盟に投票作成リストの制作に協力を頂いた。(詳細はこちら：<https://animefestival.jp/ja/award/aoy/>)
- ・東京国際映画祭より、コンペティション部門の作品への字幕協力を頂いた。



コンペティション部門長編アニメーション『シロッコと風の王国』上映後の様子



アニメ功労部門顕彰記念『装甲騎兵ボトムズ ザ・ラストレッドショルダー』&トークショー



「これからのドワーフ～20周年からその先へ～」ドワーフ小川育監督トークショー



学生作品上映会

パートナーイベント

4-iii コ・フェスタ2023 パートナーイベント

コ・フェスタパートナーイベントは、コ・フェスタイベントのうち、国際性及び規模等でオフィシャルイベントに準じ、コ・フェスタ実行本部が承認したイベントである。本年度は16イベントが認定された。そのうち国内は13イベント、海外は3イベントだった。

-
- 1 第45回ぴあフィルムフェスティバル2023

 - 2 京都国際マンガ・アニメフェア2023

 - 3 SKIPシティ国際Dシネマ映画祭2023

 - 4 第39回ATP賞テレビグランプリ

 - 5 第48回湯布院映画祭

 - 6 きものサローネ 2023

 - 7 吉祥寺国際アニメーション映画祭

 - 8 No Maps 2023

 - 9 第15回京都ヒストリカ国際映画祭

 - 10 MPTE AWARDS 2023 第76回表彰式

 - 11 映文連 国際短編映像祭「映文連アワード2023」

 - 12 第16回アジア国際子ども映画祭

 - 13 ヨコハマ・フットボール映画祭2023

海外パートナーイベント

- 1 HYPER JAPAN Festival2023

- 2 バンコク日本博2023

- 3 Anime Festival Asia 2023 (AFA 2023)

第45回ぴあフィルムフェスティバル2023



会 期：2023年9月9日(土)～23日(土) オンライン配信は10月31日(火)まで
 会 場：国立映画アーカイブ
 主 催：(一社) PFF/ (独)国立映画アーカイブ/ (公財)川喜多記念映画文化財団/ (公財)ユニジャパン
 後 援：(特非)映像産業振興機構/ (協組)日本映画監督協会
 対 象：一般
 公式サイト URL：https://pff.jp/45th/

総来場者数(参加数)：7,111人/前年比92%
 (リアル参加：4,715人/前年比103%、
 オンライン視聴：2,396人/前年比75%)
 プレス社数：新聞社：8/通信社：1/雑誌：2/WEB：230/テレビ：1

■開催内容

●自主映画コンペティション「PFFアワード2023」

全国から応募された自主映画557本(前年比+37本)の中から選ばれた入選作品22本を各2回ずつ上映、さらに映画祭初日から映画祭終了後の10月31日までオンライン配信も実施。映画祭の表彰式で、5名の最終審査員がグランプリほか各賞を発表。グランプリに輝いた中野晃太監督の『リテイク』をはじめ、合計8作品が受賞した。最終審査員：石井裕也(映画監督)、石川慶(映画監督)、岸田奈美(作家)、國實瑞恵(プロデューサー)、五月女ケイ子(イラストレーター)。



国立映画アーカイブのロビー

●いかすぜ! 70～80年代

「ぴあフィルムフェスティバル」草創期の1970～1980年代、自主映画のムーブメントが映画界に新風を吹き込んだ時代に話題となった監督や作品を、多彩な切り口で特集上映。長崎俊一監督、塩田明彦監督、緒方明監督、山川直人監督、塚本晋也監督、矢口史靖監督ら、この特集だけで18名に及ぶゲストたちが登壇し、ここでしか聞くことのできない貴重なエピソードを披露した。



PFF アワード 2023 受賞監督と
プレゼンター

●アルノー・デプレシャン監督特集

フランスの名匠アルノー・デプレシャン監督が新作の公開に合わせて来日し、PFFでの特集上映に登壇。監督の参加は、1992年、1996年に続いて3回目となった。『二十歳の死』『魂を救え!』『そして僕は恋をする』『イスマエルの亡霊たち』を上映し、『すべての夜を思いだす』の清原惟監督とのトークも行った。また、デプレシャン監督が好きな日本映画『女囚701号 さそり』を上映し、主演の梶芽衣子と対談する企画も実現した。



アルノー・デプレシャン監督と
梶芽衣子

●第29回PFFスカラシップ作品『恋脳Experiment』完成披露

『Journey to the 母性の目覚め』で2021年PFFアワード審査員特別賞を受賞した、岡田詩歌監督による長編劇場デビュー作『恋脳Experiment』をお披露目上映。岡田監督のほか、出演の袴キララ、平井亜門、中島歩がトークショーを行った。



「恋脳Experiment」の
岡田監督と出演者

●映画音楽シリーズ「ブラック&ブラック」

2019年から続く、ピーター・バラカンの解説で楽しむ音楽映画シリーズ第8弾。今年は『ワツタックス』を上映し、バラカンと東京大学大学院教授・土屋和代がトークを行った。

■2023年度の新規取り組みとその成果・特色など

(一社) PFFでは1970年代以降の8ミリフィルムで製作された自主映画のデジタル化を行っており、今年の特集企画「いかすぜ! 70～80年代」では、大森一樹監督の8ミリ映画7本、斎藤久志監督、風間詩織監督の8ミリ映画をそれぞれ1本ずつデジタル映像で上映した。日本独自の映像文化として盛り上がった8ミリ映画を後世に伝えること、及び商業映画で活躍する監督の自主映画作品をスクリーンで上映する貴重な機会となった。

■他イベントや非コンテンツ企業との連携事例などの実施事例、件数や成果

①「第36回東京国際映画祭」との提携企画として、「PFFアワード2023」グランプリ作品『リテイク』を上映し、監督、出演者との質疑応答を実施した。



山中瑠子監督と古川琴音のトーク

パートナーイベント

京都国際マンガ・アニメフェア2023



会 期：2023年9月16日（土）・17日（日）
会 場：京都市勧業館みやこめっせ／ロームシアター京都 ほか
主 催：京都国際マンガ・アニメフェア実行委員会／京都市
共 催：KYOTO CMEX 実行委員会／京都国際マンガミュージアム／京都コンピュータ学院・京都情報大学院大学
後 援：経済産業省
対 象：マンガ・アニメ・ゲームに関する企業・団体など
公式サイト URL：<https://kyomaf.kyoto/>

総来場者数（参加数）：35,603人（昨年比：110%）
出展社数：74社（過去最多）
内 訳：（国内出展社数：72社 海外出展社数：2社）
プレス社数：38社
内 訳：（国内プレス社数：34社 海外プレス社数：4社）

■開催内容

京都国際マンガ・アニメフェア（以下、「京まふ」という。）は、マンガ・アニメを活用した新たなビジネスの創出支援、クリエイターの育成支援・雇用機会の創出、若者や外国人をはじめとした新たな観光客の掘り起こし、マンガ・アニメ文化の海外発信によるコンテンツ都市・京都のブランド向上を目的として開催している西日本最大規模のマンガ・アニメ・ゲーム等の総合見本市である。

12回目の今回は、「文化庁移転を契機とした文化と経済の融合の推進」、「コンテンツ創造・クリエイター支援」、「国内外への情報発信・ブランド向上」の3点を重点取組として実施した。

メイン会場では、過去最多の74企業・団体がブース出展し、豪華声優等が出演する25のステージイベントを実施し、総来場者数は35,603人、オンラインでの配信視聴者数は402,693回と多くの方に楽しんでいただいた。

クリエイター支援では、昨年度に引き続いてメインビジュアルの作成に若手クリエイターを起用。京都芸術デザイン専門学校出身のゆうきさん：20歳（当時）が手掛け、各地でのポスター掲出やグッズ化等を行った。

また、マンガ出版社の編集部を京都に招き、マンガ家志望者が自分の作品を持ち込むことができる「マンガ出張編集部@京まふ」は、京まふと時期をずらして11月に京都国際マンガミュージアムで実施し、46編集部、138人に参加いただいた。同じくクリエイター支援を目的とする「京都クリエイティブ企業キャリアフォーラム」（コンテンツ関連企業の合同就職説明会）についても開催時期と場所を変更し、令和6年2月に京都コンピュータ学院京都駅前校で開催し、17企業、282人に参加いただいた。

産業振興の面では、8社と連携し、計296種類のアニメコラボ商品の開発を行った（昨年度：8社144種類）ほか、アニメと異業種のコラボレーションを表彰する「京都アニメものづくりアワード」の開催や、京都アニメものづくりアワード参加企業と京まふ出展企業市内企業及び行政関係者の交流会を実施するなどコンテンツビジネスの活性化にも取り組んだ。

日本のマンガ・アニメ・ゲームといったコンテンツは海外でも人気を集め、インバウンド向けの施策を充実させることが重要となってくる。来年度以降はこれまで以上に国際的な取組を模索し、老若男女、国内外問わず、多くの方々に楽しんでいただけるイベントとしたい。

■2023年度の新規取組みとその成果・特色など

みやこめっせ会場内、京都伝統産業ミュージアムとの連携を強化し、伝統産業とコラボしたカプセルトイの設置や京菓子ワークショップコーナー等を設け、国内外の幅広い世代に向けて京都の伝統産業に触れる機会を創出した。

また、ステージイベントでは和装振興に資する取組を拡大し、登壇する声優等、18名の方に着物を着用いただいた。

その他、クリエイター支援施策として、滞在型ワークショップ「Field KYOTO」を開催し、25名のクリエイターが参加した。妙心寺の宿坊に宿泊し、松竹撮影所での殺陣の体験や伝統産業ミュージアムでの講習等、京都を舞台にした作品制作に資するワークショップを開催した。

■他イベントや非コンテンツ企業との連携事例などの実施事例、件数や成果

梅小路公園で実施されたアニメサウンドトラックが主役のフェス「京伴祭」と連携し、京まふ共催イベントとした。



SKIPシティ国際Dシネマ映画祭2023

SKIPシティ国際Dシネマ映画祭2023
SKIP CITY INTERNATIONAL D-Cinema FESTIVAL 2023

会 期：(スクリーン上映)2023年7月15日(土)～23日(日) / (オンライン配信)2023年7月22日(土)～26日(水)
 会 場：SKIPシティ映像ホール/多目的ホール ほか
 主 催：埼玉県/川口市/SKIPシティ国際映画祭実行委員会
 後 援：総務省/外務省/経済産業省/文化庁/(一社)日本映画製作者連盟/(一社)映画産業団体連合会/
 (公財)ユニジャパン/(一社)外国映画輸入配給協会/(公社)映像文化製作者連盟/(一社)日本映画テレビ技術協会/
 (一社)日本映画テレビプロデューサー協会/(協組)日本映画監督協会/(協組)日本映画撮影監督協会/
 (協組)日本映画製作者協会/全国興行生活衛生同業組合連合会/生活衛生同業組合埼玉県映画協会/
 (一財)デジタルコンテンツ協会/(特非)映像産業振興機構/NHK/FM NACK5/埼玉新聞社/
 駐日アルゼンチン共和国大使館/駐日イタリア大使館/在日ウクライナ大使館/ウルグアイ東方共和国大使館/
 デンマーク王国大使館/ドイツ連邦共和国大使館/ハンガリー大使館/リスト・ハンガリー文化センター/
 在日フランス大使館/アンスティチュ・フランセ
 対 象：一般、映画関係者
 公式サイト URL：<https://www.skipcity-dcf.jp/>

総来場者数(参加数)：(スクリーン上映)7,736人、(オンライン配信)3,657回
 出展参加国と地域数：102の国と地域
 プレス社数：約70社

■開催内容

記念すべき第20回を迎えたSKIPシティ国際Dシネマ映画祭は、好評を得たハイブリッド開催を継続し、スクリーン上映を7月15日(土)～23日(日)の9日間、オンライン配信を7月22日(土)～26日(水)の7日間にわたり開催した。

開催初日には、短編映画『stay』が2020年の本映画祭国内コンペティション短編部門で優秀作品賞を受賞した藤田直哉監督の長編デビュー作であり、映画祭20周年と川口市制施行90周年を記念して製作された『験の転校生』をオープニング作品としてワールド・プレミアで上映し、映画祭の幕開けを飾った。

コンペティション部門では、102の国と地域から、過去最多となる合計1,246本の応募があり、その中から厳正な審査を経て、国際コンペティション10本、国内コンペティション長編部門6本、同短編部門8本を上映。会期中には、国内外から監督、プロデューサーをはじめゲストも多数来場し、Q&Aセッションやトークイベントを行ったほか、来日の叶わなかった海外ゲストのインタビュー動画を上映するなど、制作者と観客との交流の場を設け、作品の理解を深めるとともに、映画祭を盛り上げた。国際コンペティションの審査委員長には映画プロデューサーの豊島雅郎氏、国内コンペティションの審査委員長には映画監督の中野量太氏を迎え、クロージング・セレモニーで各賞の発表・授与を行った。

国際コンペティションでは、最優秀作品賞(グランプリ)を『この苗が育つ頃に』(レーゲル・アサド・カヤ監督/シリア)、監督賞を『僕が見た夢』(パブロ・ソラルス監督/アルゼンチン、ウルグアイ)、審査員特別賞を『シックス・ウィークス』(ノエミ・ヴェロニカ・サコニー監督/ハンガリー)、観客賞を『助産師たち』(レア・フェネール監督/フランス)が受賞した。

国内コンペティションでは、『地球星人(エイリアン)は空想する』(松本佳樹監督)が、国際コンペティション、国内コンペティションを通じた全ての日本作品を対象に、今後の長編映画制作に可能性を感じる監督に対して授与するSKIPシティアワードと、長編部門優秀作品賞のダブル受賞に輝く快挙を果たした。そのほか短編部門優秀作品賞を『猟果』(池本陽海監督)、短編部門スペシャル・メンションを『ミミック』(高濱章裕監督)、長編部門観客賞を『ヒエロファニー』(マキタカズオミ監督)、短編部門観客賞を『勝手に死ぬな』(天野大地監督)が受賞した。



パートナーイベント

SKIPシティ国際Dシネマ映画祭2023

SKIPシティ国際Dシネマ映画祭2023 SKIP CITY INTERNATIONAL D-Cinema FESTIVAL 2023

■ 2023年度の新規取り組みとその成果・特色など

新企画として2つの特集上映「SKIPシティ同窓会」、「中国映画の新境地～KATSUBEN Selection～」を実施した。

「SKIPシティ同窓会」では、映画祭20周年を記念し、本映画祭をきっかけに国内外で活躍する5人の監督（『Winny』松本優作監督、『あつい胸さわぎ』まつむらしんご監督、『ワタシの中の彼女』中村真夕監督、『さがす』片山慎三監督、『浅田家！』中野量太監督）が凱旋し、最新作の上映とこれまでの歩みを振り返るトークイベントを開催した。

「中国映画の新境地～KATSUBEN Selection～」では、映画を語るWEB番組「活弁シネマ倶楽部」との共同企画として、ロカルノ国際映画祭で審査員特別賞を受賞し、近年最高の中国映画の1本と評される、奇オチュウ・ジョンジョン監督初のフィクション長編映画『椒麻堂会』をジャパン・プレミアで上映。上映後には、本作の制作背景や中国におけるアート映画、インディペンデント映画の最新動向について語るトークイベントを開催した。

■ 他イベントや非コンテンツ企業との連携事例などの実施事例、件数や成果

第36回東京国際映画祭との提携企画として、SKIPシティアワードと国内コンペティション長編部門優秀作品賞をダブル受賞した『地球星人（エイリアン）は空想する』を上映。監督・出演者によるQ&Aセッションも実施した。



第39回ATP賞テレビグランプリ



会 期：2023年7月6日(木)
 会 場：東京プリンスホテル「プロビデンスホール」
 主 催：(一社)全日本テレビ番組製作社連盟
 後 援：総務省／経済産業省／日本放送協会／(一社)日本民間放送連盟
 公式サイトURL：https://www.atp.or.jp/awards/atpaward/award_039.php



第39回 ATP 賞

総来場者数(参加数)：394人
 プレス社数：9社
 内訳(国内プレス社数：9社 海外プレス社数： 社)

■開催内容

『ATP賞テレビグランプリ』は、日本の映像コンテンツ産業の重要な担い手となっている製作会社の社会的機能を高め、そこで働く制作スタッフ一人ひとりの情熱や気概に応えるために、創り手である製作会社のプロデューサーやディレクターが自ら審査委員となって優れた作品を選ぶ、日本で唯一の賞として1984年に創設された。ドキュメンタリー部門、情報・バラエティ部門、ドラマ部門の3つのジャンルを基幹部門として作品を募集し、受賞式にて最高賞のグランプリを決定する。2023年度の『第39回ATP賞テレビグランプリ』は、7月6日(木)東京プリンスホテルにて開催した。今年部門賞応募総数は171本、栄えあるグランプリは、3部門の最優秀賞の中からATP会員社の投票によって選ばれ、「ETV特集ブラッドが見つめた戦争 あるウクライナ市民兵の8年」(オルタスジャパン、NHKエデュケーショナル/NHK Eテレ)に輝いた。新人賞の応募総数は27名。優秀新人賞6名の中から、会員社の投票によって丸山梓さん(NHKエンタープライズ)「ようこそ認知症世界へ」(NHK Eテレ)が選ばれた。

各部門の応募数
 ドキュメンタリー78、情報・バラエティ56、ドラマ37、新人賞27 合計198

主な受賞作品(敬称略)

【最優秀賞】

ドキュメンタリー部門
 ETV特集「ブラッドが見つめた戦争 あるウクライナ市民兵の8年」
 (オルタスジャパン、NHKエデュケーショナル/NHK Eテレ)

情報・バラエティ部門
 「一軒家丸ごと壊す」(テレビ朝日映像/テレビ東京)

ドラマ部門
 フジテレビ系木曜劇場「silent」(AOI Pro./フジテレビ)

【優秀新人賞】

竜崎 琢也(共同テレビジョン) 仙台放送開局60周年記念番組「さらばだ、人間たち～AIからの挑戦状～」(仙台放送発 地上波全国ネット)

小林 彪架(共同テレビジョン)「恋愛トキワ荘」(フジテレビ、FOD)

渡辺貴美子(NHKエデュケーショナル)

「あしたも晴れ!人生レシピ 自由に動けなくても限界は作らない」(NHK Eテレ)

井口健太郎(IVS41)「ハリコミマネー そのお金、何に使うんですか?」(関西テレビ)

後藤 優佳(東京ビデオセンター)「ニッポン知らなかった選手権 実況中!」第16回ホテルレストランサービスコンクール2022(NHK BSプレミアム)

丸山 梓(NHKエンタープライズ)「ようこそ認知症世界へ」(NHK Eテレ)

【総務大臣賞】

日曜ドラマ「ブラッシュアップライフ」(AX-ON/日本テレビ)

【特別賞】

倉内 均(元アマゾンラテルナ代表取締役会長、第8代ATP理事長 [2012年～2018年])

風間 太樹(AOI Pro.所属、「silent」監督)

「タモリ倶楽部」制作チーム

■2023年度の新規取り組みとその成果・特色など

- ①グランプリ受賞者に贈呈するトロフィーを一新した。新しいトロフィーは、東京藝術大学学長でアーティストである日比野克彦氏に依頼し、『制作』というコンセプトをイメージした繊細なデザインで、富山県高岡市の職人の手で完成した。
- ②受賞式会場を六本木ハリウッドホールから東京プリンスホテルに一新し、多くの参加者に列席いただいで、華やかな受賞式となった。



グランプリ新トロフィー



グランプリ



総務大臣賞



最優秀新人賞

パートナーイベント

第48回湯布院映画祭



会 期：2023年8月24日（木）～27日（日）
会 場：ゆふいんラックホール
主 催：湯布院映画祭実行委員会
後 援：由布市／由布市商工会／大分合同新聞社／NHK大分放送局／OBS大分放送／TOSテレビ大分等
対 象：全国の映画ファン
公式サイト URL：<http://www.oct-net.ne.jp/yufuin-c/>

総来場者数（参加数）：延べ2,300人
内 訳：（国内入場者数（参加数）：延べ2,300人 海外入場者数（参加数）： 人）

■開催内容

「映画祭、部活やるってよ」と題して、青春映画の特集上映を行った。加山雄三「若大将シリーズ」の原型と言われる戦前の学園映画から、最近の『桐島、部活やめるってよ』や『アルプススタンドのはしの方』など昭和から令和に至るまで数多くの青春部活映画が製作されているが、その中から幅広い時代の映画を上映した。その上映作品を中心に「青春像の変化」や「普遍的な青春の輝き」についてシンポジウムで活発な議論を行った。特集Ⅰでは、現在進行形で格闘する監督と若い演者を引きシンポジウムを開催した。10代20代の空気感を活写するに至った「現場の格闘」を紐解き、特集Ⅱでは、かつて青春映画のアイコンとされた役者や監督を招き、日本映画がどのように青春を描いてきたかその変遷を語り合った。

■2023年度の新規取り組みとその成果・特色など

今年は、入場制限もなく、4年振りにパーティーを含め通常開催の映画祭となったが、大分県、九州を含め全国各地から多くの方が参加した。秋以降に公開される新作を3作品上映し、俳優を含め多くの製作者に参加していただいたことで、初めて参加する映画ファンも多く、新たな映画ファンを発掘することが出来た。また、幻の傑作と言われていた『片足のエース』を上映したことで、当時製作を担当した90歳を超える方が参加するなど世代を超える映画祭が実施できた。



パーティー風景



『17歳は止まらない』舞台挨拶



『アルプススタンドのはしの方』シンポジウム



『神田川のふたり』シンポジウム



『福田村事件』シンポジウム



『花腐し』シンポジウム

きものサローネ2023



会 期：2023年11月4日(土)・5日(日)
 会 場：国際フォーラム E1ホール
 主 催：きものサローネ実行委員会
 協 賛：(株)すずのき／西陣織工業組合／日本きものシステム協同組合／青山きもの学院／京ろまんグループホールディングス
 後 援：京都府／東京織物卸商業組合／京都織物卸商業組合／西陣織工業組合／名古屋織物卸商業組合／丹後織物工業組合／博多織工業組合／本場大島紬織物協同組合
 対 象：一般
 公式サイト URL：<http://kimono-salonne.com/>

総来場者数(参加数)：10,000人
 内訳：(国内入場者数(参加数)：9,950人 海外入場者数(参加数)：50人)
 出展社数：144社
 内訳：(国内出展社数：144社 海外出展社数： 社)
 プレス社数：20社

■開催内容

- ◆きものマルシェ
 - ・全国の産地、問屋、小売店、各種団体など144社の企業・団体が出展し、最新のきものファッションを提案。
- ◆ステージイベント
 - ・特設ステージを設置。トーク、講座、伝統芸能などミニイベントを開催します。
- ◆特別企画
 - ・ワークショップ他。染め、織り、組み、お手入れから着付、髪結いまで体験可能。
- ◆学生きもの優秀作品展(学生デザイン作品発表会)
 - ・次世代を担う学生が製作・発表された優秀和装作品を一堂に会してご供覧
 - ※全国の大学・専門学校、約10校から発表作品をご出品いただきます
- ◆キモノイストデー フェアインフェア(特別出展)

■2023年度の新規取り組みとその成果・特色など

今年も掲げるテーマは「アタラシイ」に逢いに行く。
 ・アタラシイ「もの」に逢いに行く。
 ・アタラシイ「こと」に逢いに行く。
 ・アタラシイ「わたし」に逢いに行く。
 アタラシイ「きものサローネ」に逢いに行く。
 出展者のブースやHPでもアタラシイ作品をPR。来場者の方々にもアタラシイきものに触れて頂いたと思う。



パートナーイベント

吉祥寺国際アニメーション映画祭

会 期：2024年2月23日（金）～25日（日）
会 場：武蔵野公会堂
主 催：吉祥寺活性化協議会／吉祥寺国際アニメーション映画祭実行委員会
後 援：武蔵野市／東京都／経済産業省関東経済産業局
協 賛：武蔵野商工会議所／武蔵野市商店会連合会／（一財）武蔵野市開発公社
公式サイト URL：<https://www.kichifes.jp/animation/>

総来場者数（参加数）：延べ701人
内 訳：（国内入場者数（参加数）：701人 海外入場者数（参加数）： 人）
プレス社数：2社
内 訳：（国内プレス社数：2社 海外プレス社数： 社）

■開催内容

□宮崎アニメの原点と「動き」の魅力～上映会&トークショー 令和6年2月23日（金・祝）

『ルパン三世 カリオストロの城』・『王と鳥』上映とスペシャルトークショー

『アニメーションに生命（いのち）を吹き込む人たち』

竹熊健太郎氏×津堅信之氏×本田雄氏（アニメーター「君たちはどう生きるか」作画監督）
×井上俊之氏（アニメーター「君たちはどう生きるか」など）×島本須美氏（声優『カリオストロの城』クラリス役など） 入場者 444人

□『ポプテピピック』&青木純の世界とワークショップ 令和6年2月24日（土）

青木純監督作品上映、『ポプテピピック』傑作選上映と青木純監督トークショー

青木純氏×植草航氏（第7回グランプリ受賞作家）×福地明乃（第13回グランプリ受賞作家）
入場者 147人

・ワークショップ「ネコを動かしてニャニメーションを作ろう！」 参加者14組 20人

□吉祥寺国際アニメーション映画祭 本選・表彰式 令和6年2月25日（日）

応募総数65作品の中から14作品がノミネート。ノミネート作品の上映、審査、表彰式。
竹熊健太郎審査員長のほか、吉祥寺周辺のアニメ制作会社が審査。今年はスペシャルゲストとして片瀨須直氏が参加。 入場者 90人

審査員長：竹熊 健太郎

審査員：津堅信 之、青木 純、白石 慶子、中村 誠、森本 晃司（ゲスト審査員）

各賞受賞者／作品名：

【グランプリ】	李 叔芹／『月見ごっこ』
【優秀賞】	謝 宗旻／『長期照顧』
【ギャグアニメ賞】	田邊 馨／『田中くんと二階堂くん』
【ストップモーション・アニメーション賞】	葭原 武蔵／『Midnight Special』
【審査員特別賞】	桑 宇軒／『ゾウのかたち Shape of the Elephant』
【審査員特別賞】	松本 伊代／『ピロピロプウ』
【スタジオ4℃賞】	根間 笑花／『マジムノクニ』
【コアミックス賞】	劉 禹辰／『来世 ユニコーンの首筋後ろのホクロになりたい』
【プロダクション・アイジー賞】	池辺 凜／『520』
【ジブリ美術館賞】	新海 大吾／『ぼくがかわいい黒いもの』

■他イベントや非コンテンツ企業との連携事例などの実施事例、件数や成果

□連携自主イベント

①令和6年2月22日（木）～29日（木）武蔵野市立吉祥寺図書館 「未来の巨匠がここに！」
デジタルサイネージによる前年度入賞作品のうち許諾を得られたものの上映とアニメーション関連図書展示。



NoMaps2023



会 期：2023年9月13日（水）～17日（日）
 会 場：札幌市中心部会場で実施（一部オンライン配信も実施）
 主 催：NoMaps 実行委員会
 共催・後援は多数のため、ウェブサイトでご確認ください。
 対 象：起業家や企業の新規事業開発担当などを中心に、新しい社会やビジネスに関心の高い方、一般市民
 公式サイト URL：<https://no-maps.jp>

総事業数 125 事業 参加者総数 リアルイベント来場者数 55,310 人 オンライン配信ライブ視聴者数 1,782 人
 【Conference】 90 セッション、来場者 3,730 人、ライブ視聴者数 1,782 人
 【Exhibition】 14 事業、来場者数 13,510 人
 【Event】 15 事業、来場者 39,722 人
 【Meet-up】 13 事業、来場者 1,389 人
 【Experiment】 3 事業、1,300 人

■開催内容

先端テクノロジーや斬新なアイデアを核とした「新しい価値観／文化／社会の姿」を提案するコンテンツをテーマに、「会議（Conference）」「展示（Exhibition）」「興行（Event）」「交流（Meet-up）」「実験（Experiment）」の5つの事業によって、新たなビジネスを生み出し、加速させるための場を提供している。

2023年度は、2022年度に引き続き“札幌市街地での同時多発的な展開”をキーワードとして掲げ、多数の企業・団体等と新たに連携しながら、札幌中心部でのジャンルや形態に囚われない複合型フェスティバルとして、前年度はまだオンラインを主軸としてたカンファレンスもリアル中心の場として、コロナ禍で培ったオンライン配信ノウハウなども併用しつつ、現場での体験価値を高めるような取組を軸としていった。

〈会議（Conference）〉

NoMapsカンファレンスでは、新しい技術・サービス・アイデアで道なき道を切り拓く多様なゲストを招き、世界に展開するビジネスから、地方創生を目指したクリエイティブな取組まで、多様なテーマのカンファレンスを、BIZ、SOCIAL、GLOBALなど分野ごとにエリアを構築して開催。2019年度以来のオフラインメインでの展開として、ゲストも多くを招聘しながらリアルでの交流につなげた。

〈展示（Exhibition）〉

チ・カ・ホをNoMaps WELLNESSエリアとして、健康増進に絡むプロダクトやサービスの展示の場として企画。睡眠やマイナンドフルネス、フェムテックなどの領域で先端的な取組を行う企業等のサービスに気軽に市民が触れられる場として展開した。また、誰もが当たり前前にファッションを楽しめる日常を目指すイベント「Super Welfare Fashion Expo」を開催し、障害者の“ため”ではない、誰にでも着やすいアイテムが揃う展示会として展開した。

〈興行（Event）〉

初展開となる「NoMaps SPORTS」、そしてそれに絡めての展開となった「さっぽろレインボープライド2023」「ボウサイフェス」、地下通路での「AR ART STREET」、昨年度に引き続いての「さっぽろランタンフェス2023」など、主催事業・連携事業を問わず、中心市街地の公共空間をジャックして非日常感を演出。同時期に大通公園で開催していた「2023 さっぽろオータムフェスト」も含めて、多様な方が集まる都市部の体験価値を向上した。



パートナーイベント

NoMaps2023



〈交流 (Meet-up)〉

多様なカテゴリで展開するNoMapsにおいて、分野横断的にネットワーク形成をサポートし、新たな化学反応を生み出す場であるミートアップでは、メインとなるNoMaps Meeeeeet!!をはじめとして、その後のアフターミートアップや、分野に特化したものなど、非常に幅広く展開することで、ベースキャンプとしての機能をより充実させていった。

〈実験 (Experiment)〉

道庁南エリアのエリアマネジメントの一環として行われた道庁南エリア社会実験・働く楽しむストリート「do it your street!」や、大通公園をフィールドとして、地下空間の新しい活用を考えるための実感的な試みである「チ・カ・ホのホイクシツ」などの展開を行った。また、AR ART STREETも、地下空間の新しい活用を考えるための試みの一つとして展開した。

■ 2023年度の新規取り組みとその成果・特色など

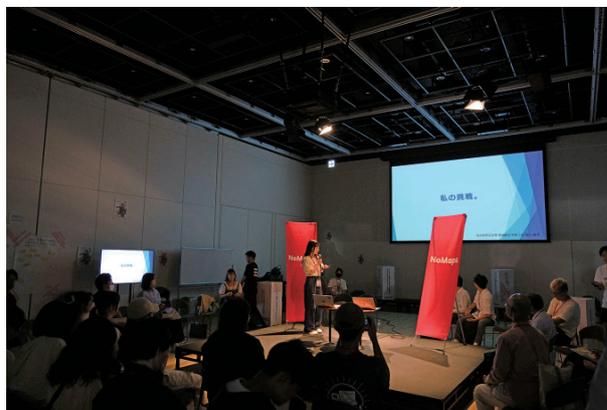
これまで10月開催としていたイベント時期を1ヶ月前倒して、9月開催とした。これにより、気候的にもより過ごしやすい時期で、オータムフェストなど大規模イベントが中心部で開催されている時期に、公共空間を含め人目に触れやすい場所を多面的に使いながら事業を行うことで、観光客を含め多様な人の参加が実現した。

また、分野毎のエリア構築をして、共通の関心事項を持った人が集まりやすいイベントデザインとしつつ、NoMapsの特徴である分野横断的なミートアップは継続して行うことで、交流の深化が進んだ。

■ 他イベントや非コンテンツ企業との連携事例などの実施事例、件数や成果

IT系業界団体や教育関係団体、札幌国際芸術祭のほか、札幌商工会議所青年部や札幌青年会議所など若手主体の経済団体も巻き込み、多様なジャンル・母体と連携しながら、多彩なイベントを展開した。全体のうち、共催または他団体が主催のコンテンツが半数近くになっており、様々な団体・企業を巻きこみながら運営し、みなで共創する場としての色合いを強めている。

今年度は開催時期をずらしたこともあり、新たにさっぽろオータムフェストやさっぽろレインボープライドといった大規模なイベントとの連携なども行うことができた。



第15回京都ヒストリカ国際映画祭



会 期：2024年1月23日(火)～28日(日)
 会 場：京都文化博物館 フィルムシアター／オンライン
 主 催：京都ヒストリカ国際映画祭実行委員会
 (京都府／京都文化博物館／東映(株)京都撮影所／(株)松竹撮影所／(株)東映京都スタジオ／巖本金属(株)／
 (株)ディレクターズ・ユニブ／立命館大学／(株)Skeleton Crew Studio／(一社)京都ヒストリカ)
 共 催：KYOTO CMEX 実行委員会
 後 援：(一社)日本映画製作者連盟／(一社)外国映画輸入配給協会／(一社)日本映画テレビ技術協会
 対 象：一般
 公式サイト：https://historica-kyoto.com/

総来場者数(参加数)：1,529人

■開催内容

京都ヒストリカ国際映画祭、通称「HISTORICA」・「KHIFF」は、ジャンル映画祭として「歴史」をテーマにした国際映画祭である。今年度のシアター上映のスペシャルプログラムは、TVアニメ『ONE PIECE』ワノ国編(2話分)の上映と、シリーズディレクターの長峯達也氏とラインプロデューサーの赤堀哲嗣氏のトークを実施した。また映画のLOOKをテーマに、ジャパンプレミアの海外新作を4作品、国内外の旧作8作品を上映。昨年に引き続き、ヴェネチア国際映画祭・ポローニャ復元映画祭と連携したプログラムなど、全19作品を上映した。コロナ禍以降実現していなかった海外からのゲストについても、イタリア・ポーランドから6名のゲストが来場した。

新たな取り組みとして、週末の2日間で「ヒストリカお座敷」という15セッション30名のゲストが来場したトークイベントを企画した。またVR映画も、コロナ禍以降初めて上映し、引き続き好評を得ているYouTube Liveを活用したオンライントーク企画「夜のヒストリカ」も継続して実施した。

■2023年度の新規取り組みとその成果・特色など

「映画上映の合間で、トークを聞く」、「ゲストトークの合間に、映画をみる」というようなこれまでの「映画を見て帰る」というお客様のアクションを変えようと、上映とトークイベントが平行で進行する形で、「ヒストリカお座敷」という和室でのイベントを実施した。映画だけでなく、映画に隣接するジャンルのアニメ、ゲームなど多彩なテーマでトークイベントを実施し、異ジャンルのゲストの交流や新たな層のお客様の参加など、映画祭に新しい展開のきっかけを作ることができた。



パートナーイベント

MPTE AWARDS 2023 第76回表彰式



会 期：2023年11月1日（水）

会 場：東京国際フォーラム ホールD5

主 催：（一社）日本映画テレビ技術協会

後 援：経済産業省／（一社）映画産業団体連合会／（一社）日本映画製作者連盟／（公財）ユニジャパン／
（公社）映像文化製作者連盟／（一社）外国映画輸入配給協会／全国興行生活衛生同業組合（連）／（特非）映像産業振興機構／
（一社）日本映像ソフト協会／（一社）日本アド・コンテンツ制作協会／（一社）日本ポストプロダクション協会／NHK／
（一社）日本民間放送連盟／（協組）日本映画撮影監督協会／（協組）日本映画・テレビ照明協会／
（協組）日本映画・テレビ美術監督協会／（協組）日本映画・テレビ録音協会／
（協組）日本映画・テレビ編集協会／（公社）日本照明家協会／
（特非）テレビ日本美術家協会／（特非）日本ビデオコミュニケーション協会
（順不同敬称略）

協 賛：ネットアップ(同)／NHK(メディア技術局・報道局)／(株)TBS アクト／(株)HDN／
アオイスタジオ(株)／朝日放送テレビ(株)／アストロデザイン(株)／(株)アップサイド／
池上通信機(株)／伊藤忠ケーブルシステム(株)／
(株)IMAGICA エンタテインメントメディアサービス／(株)IMAGICA Lab.／(株)NHKアート／
(株)NHKテクノロジー／(株)オオトモエンジニアリング／(株)角川大映スタジオ／
関西テレビ放送(株)／(株)関西東通／(株)GEAR／(株)共映／(株)小輝日文／国際放映(株)／
(株)三和映材社／シユア・ジャパン(株)／松竹(株)／(株)松竹映像センター／ソニーPCL(株)／
ソニープロテクノサポート(株)／ソニーマーケティング(株)／(株)千代田ビデオ／
(株)TBSテレビ／(株)テレビ朝日／(株)テレビ朝日クリエイト／テレビ大阪(株)／
(株)テレビ東京／東映(株)／東映アニメーション(株)／東映ラボ・テック(株)／(株)東京光音／
(株)東京サウンド・プロダクション／東宝(株)／Dolby Japan (株)／日活(株)／
(株)日テレ・テクニカル・リソーシズ／日本大学芸術学部／日本テレビ放送網(株)／
（一社）日本ポストプロダクション協会／(株)バスク／ビジュアル・グラフィックス(株)／
(株)フォトン／(株)フジテレビジョン／富士フイルム(株)／(株)フジ・メディア・テクノロジー／
(株)フレックス／(株)朋栄／(株)放送技術社／三友(株)／(株)レイ／
(株)レスターコミュニケーションズ／レスパスビジョン(株)／(株)WOWOW（順不同敬称略）

対 象：映画テレビ技術に関連する技術者及び研究者

公式サイト URL：https://mpte.jp/

総来場者数（参加数）：120人

内 訳：（国内入場者数（参加数）：120人 海外入場者数（参加数）： 人）

プレス社数：5社

内 訳（国内プレス社数：5社 海外プレス社数： 社）

■開催内容

1947年の創立以来、制作現場で技術に携わっておられる方々を表彰する日本で唯一の賞として、映像制作技術の進化と制作意欲の向上を目的に、長年実施しているMPTE AWARDS。毎年、1月～3月に該当年度の応募を受け付け、4月～9月には、そのジャンルごとの技術者・総勢100名を審査員に迎え、厳正な審査会を都度行い、受賞を決定している。第76回の審査会はリアル式とオンライン式の併用で進め、各技術に最適な審査体制を整えた。

2023年は、「第76回技術開発賞」、「第76回映像技術賞」、「第41回青い翼大賞（学生作品の映像技術賞）」、「第26回経済産業大臣賞（日本映画テレビ技術大賞）」の授与を行った。技術開発賞では現場開発分野からの応募が多く集まり、AIの革新的発展が反映された実績が目立った一方で、何年も継続的に続けた研究成果の発表もあり、多種多様な技術が集まる結果となった。映像技術賞に関しては、撮影・照明・録音・音声・美術・編集・VFX・OAGの各分野をそれぞれ表彰。当日には花束授与も行われた。同技術賞の学生作品版である青い翼大賞では、学生生活がコロナ禍一色となってしまった世代の作品が集まる形となったが、厳しい中でも工夫を重ね、創作活動を意欲的に続けた姿が感動を呼んだ。

協会創立と時を同じくして始まった本 AWARDS。77回目を迎えた現在は、映像コンテンツを誰しも気軽に発信できるようになり、製作環境は急速に変化し続けていると言える。だが、どの様な時代になろうとも、映像を創るのは人＝技術者の皆様。これから映像業界を目指す次世代の技術者達に意欲と勇気を与えることが出来る意義ある顕彰活動であるよう、次回に向け益々の発展を約束し、閉会した。



会場



技術開発賞



映像技術賞



青い翼大賞



経済産業大臣賞

映文連 国際短編映像祭「映文連アワード2023」



会 期：2023年11月27日(月)～29日(水)
 会 場：表彰式：国立新美術館講堂 上映会：ユーロライブ
 主 催：(公社)映像文化製作者連盟
 後 援：文部科学省／経済産業省／東京都／(特非)映像産業振興機構／(一社)日本映画テレビ技術協会／
 (一社)日本アド・コンテンツ制作協会／(一社)日本ポストプロダクション協会／日本映画撮影監督協会／
 日本映画テレビ照明協会／(一社)デジタルコンテンツ協会／(株)毎日新聞社／(株)日本経済新聞社／(株)朝日新聞社／
 (株)読売新聞東京本社／(株)映像新聞社／(有)ユニコム社
 対 象：一般、学生、映像制作関係者
 公式サイト URL：<http://www.eibunren.or.jp/award2023/index.html>

総来場者数(参加数)：約900人 ※ライブ配信視聴者含む
 内 訳：(国内入場者数(参加数)：900人 海外入場者数(参加数)： 人)
 プレス社数：3社
 内 訳：(国内プレス社数：3社 海外プレス社数： 社)

■開催内容

17回を迎えた、わが国唯一の産業・文化関連の短編映像祭「映文連アワード2023」表彰式は、11月27日(月)午後1時30分
 から国立新美術館講堂において開催し、最優秀作品賞(グランプリ)を始め、32作品に賞状とトロフィーを授与した。

「映文連アワード2023」受賞作品上映会は、28日(火)・29日(水)に渋谷・ユーロライブにおいて開催し、全受賞作品32本
 を6プログラム(「わたしたちは、作りつづける。」、「時代をつなぐ」、「コーポレート映像の現在」、「想いをつなぐ」、「自由と人権
 を考える」、「若手クリエイターの映像表現」)に分けて上映。トークセッションも開催。また、映文連創立70周年企画も実施した。

28日夜は、「International Corporate Film Showing 2023」を開催し、World Media Festival、Cannes Corporate Media & TV
 Awards、US International Awards、AUTOVISION Awards等の受賞映像19作品を上映した。プロデューサー等関係者のビデオ
 メッセージを3本上映したことや、映像祭の関係者や上映作品の制作者などが来日ゲストとして登場し、充実した内容となった。

■2023年度の新規取り組みとその成果・特色など

2023年度は映文連創立70周年にあたる年だったことより、入場無料企画として、過去の名作上映や連盟の歴史を追った新作
 映像を上映するコーナーを設けた。29日は、「映文連70周年記念映像 わたしたちは、作りつづける。」(製作：映文連、2023年)、「煤
 煙の街の子どもたち」(製作：東映、1956年)、「彫る 棟方志功の世界」(製作：毎日映画社、1975年)を上映。30日は、「映文
 連70周年記念映像 わたしたちは、作りつづける。」、「生命誕生」(製作：東京シネマ、1963年)、「青函トンネル 総集編 -本
 州側工事の記録-」(製作：鹿島映画、1985年)を上映した。

また、コロナ禍ではじめて表彰式の模様を、日経チャンネル(<https://channel.nikkei.co.jp/>)で取材してもらい、ライブ配信す
 る企画を引き続き実施した。今後も当面アーカイブしてもらい、視聴機会及び認知向上を図る。



最優秀作品賞(グランプリ)表彰



上映会場



トークセッション



受賞者集合写真



受賞者集合写真

パートナーイベント

第16回アジア国際子ども映画祭



会 期：2023年12月16日(土)
会 場：南あわじ市文化体育館
主 催：アジア国際子ども映画祭実行委員会
共 催：外務省／北見市／北見市教育委員会／江別市／江別市教育委員会／南あわじ市／南あわじ市教育委員会
後 援：法務省／経済産業省／兵庫県／兵庫県教育委員会／(公財)兵庫県青少年本部／(公財)B&G財団／NHK神戸放送局／朝日放送テレビ／神戸新聞社／関西テレビ放送(株)／サンテレビジョン／MBSテレビ／読売テレビ放送(株)／朝日新聞神戸総局／神戸新聞社／毎日新聞神戸支局／読売新聞洲本支局／(株)ラジオ関西／洲本市教育委員会／淡路市教育委員会／(一社)淡路島観光協会／南あわじ市商工会
対 象：小学生、中学生、高校生及びそれらの年齢に相当する個人又はグループ

総来場者数(参加数)：451人

内 訳：(国内入場者数(参加数))：269人 海外入場者数(参加数)：182人

出展参加国と地域数：13の国と地域

■開催内容

本映画祭は、国内及びアジア各国・地域の子どもたちが自ら制作した3分間の映像作品の中から、各国(地域)が自国の(地域)の優秀な作品を選定し、兵庫県南あわじ市文化体育館で上映・表彰を行った。

作品のテーマは「私がほしいもの」で、国内(3ブロック及び法務省少年矯正施設)や海外の予選大会を経て、本選大会では国内12作品と海外42作品の合計54作品がノミネートされ、杉良太郎氏をはじめ他3名の審査員により優秀作品が選出された。各賞は、杉良太郎特別賞、法務大臣賞、外務大臣賞、文部科学大臣賞、経済産業大臣賞、大会会長賞、審査員特別賞、優秀賞2作品、入賞2作品の合計11作品。表彰プレゼンターとして、EXILE MAKIDAI様、EXILE NESMITH様、w-indsの千葉涼平様、AKB48の岩立沙穂様の4名がゲスト出演し、ゲストにより警察庁や厚生労働省の啓発活動も行われた。

映画作品を通じて、アジア各国と周辺地域の子どもたちが伝えたいそれぞれの気持ちを理解し合い、将来アジアの青少年相互交流発展の機会を与えた。

国際交流：12月12日～12月21日

12月15日には、南あわじ市湊地区公民館にて、アジア12か国・地域の訪日団を対象に、南あわじ市のウェルカムセレモニーが行われ、韓国のみ12月18日に南あわじ市役所にて行われた。

また、学校訪問では、市内の大学・高校などで体験学習を実施し、部活動や授業を通じて交流を図った。

さらに、映画祭終了後には、国内・海外映画制作者や関係者同士が交流するアフターパーティを実施し、軽食をとりながら、各国の伝統芸能などダンスを中心としたパフォーマンスがあり、国・地域を超えた参加者同士の交流が図られた。

映画祭の翌日以降は、国内の観光地や文化・歴史施設等を訪問し、アジア各国・地域の子ども達による成果報告会も開催された。

映画祭本選大会に合わせて来日する映像を制作したアジアの子どもたちと、日本の子どもたちと異文化と異世代、または同世代交流を図ることで文化の幅広い交流と理解が深められ、未来を担うアジアの子どもたちが友好関係を築き上げていくこと、さらに映像産業は今後の成長を見込める有望な産業分野の一つであり、この産業の未来の担い手となる若者の発掘及び育成に寄与した。

■2023年度の新規取り組みとその成果・特色など

本映画祭は、2019年度に南あわじ市で開催して以来、新型コロナウイルス感染症の影響により2020年度は中止、2021年度及び2022年度の実施は延期となり、4年ぶりの開催となった。

映画祭第1部では、地元小学生らが、アフタースクール事業のダンスプログラムで淡路島特産の「玉ねぎ」にちなんだバイオリニスト、益子侑氏作曲『おにおんリング』の生演奏に合わせたダンスを日頃の練習の成果を披露した。

また、第2部では、地元中学校郷土芸能部による500年の歴史を誇る「淡路人形浄瑠璃」の演目「戎舞」に、ゲストのAKB48岩立沙穂様(警察庁特別防犯支援官)による警察庁「特殊詐欺被害」の防止の呼びかけや啓発動画の上映を行い、南あわじ市の伝統文化と警察庁啓発のコラボレーション演出を行ったことで、啓発活動に深みをもたらした。

さらに、厚生労働省「肝炎プロジェクト」のスペシャルサポーターであるEXILE MAKIDAI様、EXILE NESMITH様、w-indsの千葉涼平様による肝炎に関する知識や肝炎ウイルス検査の必要性を分かりやすく伝えるなど、国内外の次代を担う子どもたちに向けて健康行政の普及啓発活動を行うことができた。



JENESYS ウェルカムセレモニー



杉良太郎特別賞(シンガポール)



アフターパーティ(軽食)



アフターパーティ(パフォーマンス)

ヨコハマ・フットボール映画祭2023



会 期：2023年6月17日(土)～23日(金)
 会 場：かなっくホール／シネマ・ジャック&ベティ
 主 催：(特非)横浜スポーツコミュニケーションズ
 運 営：ヨコハマ・フットボール映画祭実行委員会
 後 援：横浜市にぎわいスポーツ文化局／日本サッカー協会／Jリーグ／WEリーグ／神奈川県サッカー協会／
 スウェーデン大使館／日英協会／日米協会／日本ブラジル中央協会／横浜港振興協会
 対 象：サッカーファン、映画ファン
 公式サイト URL：<https://yfff.org/yfff2023/>

総来場者数(参加数)：2,300人
 内訳：(国内入場者数(参加数)：2,300人 海外入場者数(参加数)： 人)
 出展社数：10社
 内訳：(国内出展社数：10社 海外出展社数： 社)

■開催内容

サッカーをキーワードにさまざまな視点の映画作品7本の上映と、バラエティ豊かなイベント5本を実施しました。男女待遇格差、障がい、ヤングケアラーなどを扱った作品を上映することで社会課題への理解の機会を提供できました。特に『LFGーモノいうチャンピオンたちー』は、女子ワールドカップに近いこともあり、多くの新聞などで紹介いただきました。また、普段映画館から縁遠いサッカーファンに、応援上映という新しい映画の楽しみ方を体験いただきました。

◆上映 7作品、12上映

- ①『Beyond Together <沸騰応援上映>』
 ゲスト：マリノスOB選手 水沼貴史、波戸康広、栗原勇蔵
 司 会：ささゆか(ラジオパーソナリティ)
- ②『バック・トゥ・マラカナン』
 ゲスト：カカロニすがや(タレント)
- ③『I AM ZLATAN/ズラタン・イブラヒモビッチ』
 ゲスト：倉敷保雄(フリーアナウンサー)
- ④『ザ・ロングウォーク トラウマと贖罪ー』
 ゲスト：ジャイアント若田、内藤秀明
- ⑤『LFGーモノいうチャンピオンたちー』
 ゲスト：高田春奈(WEリーグチェア)、能條桃子(NO YOUTH NO JAPAN代表理事/FIFTYS PROJECT代表)
 司 会：石井和裕(WE Love 女子サッカーマガジン 主筆)
- ⑥『ある日突然に』
 ゲスト：加藤諒也(love.fútbol Japan 代表)
- ⑦『ケイコ 目を澄ませて』
 ゲスト：小笠原恵子(原案 「負けないで」著者)

◆トークイベント 5本

- ①“ことば”が広げるフットボール
 出 演：倉敷保雄(フリーアナウンサー)、金井真紀(文筆家・イラストレーター)
- ②レフトーク!
 出 演：扇谷健司(日本サッカー協会 理事、審判委員長)、家本政明(元国際審判員)



パートナーイベント

ヨコハマ・フットボール映画祭2023



- ③ドキュメンタリー「トモにカタルヘ！」上映
出 演：ちょんまげ隊長ツンさん
- ④ミルアカお呼ばれ出張トークライブ in YFFF リターンズ！
出 演：MILKサッカーアカデミー
- ⑤喋る×蹴るー声優が届けるサッカー愛ー
出 演：梅澤めぐ（声優）、本郷里実（声優）、司会：金子弘

◆フットボールエキスポ 出展8ブース

- ①MIHO AOKI（刺繍）
- ②PINK-HAIR TALKIE（ZINE）
- ③大木雄介（写真）
- ④WE ARE（写真）
- ⑤love.futbol Japan（貧困支援）
- ⑥Jサポフリーペーパーサミット エクストラ（フリーペーパー）
- ⑦インコグラフィカ（障がい者サッカー写真）
- ⑧サッカーコミックブース

■2023年度の新規取り組みとその成果・特色など

今回から、サブ会場でのトークについて、配信チケットと、交流オプションチケット（出演者と個別に会話ができる）を販売し、それぞれ多くの方にご利用いただきました。

また、全ての上映、トークイベントのチケットを指定席化することで、入場時の混雑の緩和が実現しました。

同時に、シネマ・ジャック&ベティでの上映のチケットは、劇場のプラットフォームで販売していたものを、今年から、かなっくホールでのチケットと同一プラットフォームで販売することになり、利便性が向上した。



HYPER JAPAN Festival 2023



会 期：2023年7月21日（金）～23日（日）
 会 場：Olympia London
 主 催：Cross Media
 後 援：在英国日本国大使館／(独)日本貿易振興機構（JETRO）／
 (独)国際観光振興機構（JNTO）／(独)国際交流基金／
 (一財)自治体国際化協（CLAIR）／
 (一財)日本音楽産業・文化振興財団（JMCE）／
 NPO法人映像産業振興機構（VIPO）／(一社)日本動画協会（AJA）／
 (一財)デジタルコンテンツ協会（DCAJ）
 対 象：主にイギリス在住の日本文化ファン
 公式サイト URL：https://hyperjapan.co.uk/festival-2023/

総来場者数（参加数）：22,000人
 内訳：（国内入場者数（参加数）：人 海外入場者数（参加数）：22,000人）
 出展社数：300社
 内訳：（国内出展社数：8社 海外出展社数：292社）
 プレス社数：104社
 内訳：（国内プレス社数：2社 海外プレス社数：102社）

開催内容

ロックダウン前に開催した2019年度に使用した会場に戻り、出展者・来場者共に久しぶりのOlympia LondonでのHYPER JAPANを楽しんだ。準備日を含む4日間すべて長距離列車等のストライキが重なり、遠方からの来場者数がやや減ってしまったものの、ロンドン在住者が雨にも関わらず足を運び、来場者数は昨年10%増の22,000人となった。

会場が広がった分、ケータリングエリアの長蛇の列は緩和されたが、人気なエリアであることには変わりなく、昼時は多くの来場者が日本料理を求めて集まり、丼物や粉もの、そして抹茶スイーツ等を楽しんだ。日本酒の試飲エリアが自社企画のSake Experience以外にもあり、多くのお客様が日本酒を飲み比べて、そして買い物をしていった。来場チケット料金以上の金額設定をしているワークショップ（書道、茶道、生け花、日本酒カクテルづくり、染め物、キツネ面への絵付け）も、当日券はほとんどない程人気のコンテンツとなり、ポップな日本だけではなく伝統的な文化も楽しまれた方が多くいた。

20代、30代が半数を占めるイベントとなり、昨年同様ショッピングを楽しみに来場される方も多く、消費額の平均額は93ポンド（当時の為替で約17,000円）となった。

2023年度の新規取り組みとその成果・特色など

- 土曜日をこれまで2部制で入れ替えをしていたが、それを廃止し、1日券としたことで、午後の部へ入場される方の長蛇の列を無くすことができ、会場周りでの混雑を解消できた。
- 人気のステージコンテンツ（ファッションショー、コスプレショー）を午前中に設置し、午後の人の混雑を避けようと狙ったが、参加者からは元通り午後の部に戻って欲しいという声が多くあがった（2024年に向けての改善点）。



海外パートナーイベント

バンコク日本博2023

NIPPON
HAKU
BANGKOK
2023

会 期：2023年9月1日(金)～3日(日)
会 場：サイアムパラゴンショッピングセンター5階 ロイヤルパラゴンホール
主 催：バンコク日本博2023実行委員会／(株)ジェイエデュケーション／
パーソネルコンサルタントマンパワータイランド(株)
後 援：在タイ日本国大使館／国際交流基金バンコク日本文化センター／
(独)日本貿易振興機構／日本政府観光局／タイ国日本人会／
(公財)日本科学技術振興財団・科学技術館／御茶ノ水ロータリークラブ
対 象：一般、ビジネス
公式サイト URL：https://nipponhaku.com/



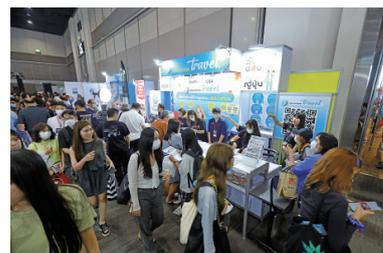
総来場者数(参加数)：129,084人 過去最多
ビジネスエリアの来場者数(参加数)：49人
内 訳：(国内入場者数(参加数)： 人 海外入場者数(参加数)：49人)
出展社数：208社
内 訳：(国内出展社数：100社 海外出展社数：108社)
出展参加国と地域数：2の国と地域
バイヤー数：49人
内 訳：(国内バイヤー： 人 海外バイヤー：49人)
商談件数：20件
プレス社数：233社



■開催内容

バンコクの中心にあるショッピングセンターのサイアムパラゴンにて、「バンコク日本博2023」を9月1日から9月3日まで実施。

トラベル、ショッピング、コンテンツ、食、留学、就職などの日本の魅力を網羅し、日本のコンテンツ力を活用して、集客に活かすとともに、各産業の紹介、タイにおける需要の創出と発展に繋げることを目的としている。



■2023年度の新規取り組みとその成果・特色など

- ・オープニングセレモニーで、LDH JAPANとパートナーシップ契約をしているタイの大手レーベルHIGH CLOUD ENTERTAINMENTの各代表が登壇。各代表自体も知名度の高いパフォーマーのため、TV番組を中心に日本・タイの多くのメディアに取り上げられた。
- ・前述のLDH JAPANとHIGH CLOUD ENTERTAINMENTを含むタイと日本に影響を与えるインフルエンサー24組に対して、インフルエンサーアワードをステージで初日に実施。表彰されたインフルエンサーが、受賞したことをSNSに発信することで、更にイベントの広報にも繋がった。
- ・日本から20の酒蔵が集まり、50種類の日本酒を試飲できるタイ最大の日本酒類フェスティバルを会場内で実施。大きな酒樽や杉玉を装飾するなど、ブース装飾にも工夫があり、日本の酒蔵のイメージに繋がった。



■他イベントや非コンテンツ企業との連携事例などの実施事例、件数や成果

- ・自治体向けに、現地旅行会社とのビジネスマッチングを実施した。
- ・2025年日本国際博覧会を紹介する特設サイトを設けた。SDG'sの取り組みや、チケット販売について等の紹介をした。
- ・日本のアート系専門学校に留学したことのあるタイ人が、自分の作品を展示販売するCre-ART-ter Art Festivalを会場内で実施した。



Anime Festival Asia 2023 (AFA 2023)



会 期：2023年11月24日（金）～26日（日）
 会 場：Suntec Singapore Convention & Exhibition Centre
 主 催：SOZO Pte. Ltd.,
 共 催：(株)ホリプロインターナショナル／(株)HT Entertainment／(株)ぴあグローバルエンタテインメント／(株)ライブエグザム
 後 援：シンガポール政府観光局
 対 象：アニメ、マンガ、ゲーム
 公式サイト URL：https://https://animefestival.asia/afa23

総来場者数（参加数）：129,838人

内 訳：（国内入場者数（参加数）：66% 海外入場者数（参加数）：34%）

ビジネスエリアの来場者数（参加数）：公式ビジネスエリアはないですが、多くのビジネス関係者がAFAを利用し商談活動を行っています。

出展社数：220社+150クリエイターブース

プレス社数：177社

■開催内容

AFAは、本物のJPOPカルチャーを東南アジアのファンに届けすることを目的としており、今回も日本からも多くの出展・参加企業があった。中でもウルトラマン・トレーディングカードゲーム（TGC）の世界発表イベントやブシロードグループの大型ブースなどが注目を集めた。

総面積10,000平方メートルを超える展示スペースには、これまでで最多となる25カ国から370のブースが出展され、この中には、7カ国から26人のトップコスプレイヤー、24カ国から124名のクリエイターの出展ブースも含まれている。展示スペースに併設された大小のステージ会場も好評で、日本からも多くの人気声優や制作スタッフ陣が登場し、シンガポールをはじめとした、東南アジアのファンとの交流の場となった。

夜には大型のステージエリアでコンサートイベントが每晚開催され、1日目「I Love anisong」、2日目「ホロライブ meet」、3日目「SACRA MUSIC FES.」と題し、日本のトップアーティスト20組と世界的に人気のトップVTuber 9名が出演。本物のJPOPカルチャーを体感する場所として、今年も多くの参加者を満足させる結果が得られた。

■2023年度の新規取り組みとその成果・特色など

〈安全面への配慮と顧客利便性向上への取り組み〉

増え続ける参加者の安全と利便性を確保する為、NFCに対応したリストバンドを採用する事により、参加者はNFCに連動する様々なアクティビティに参加し、リワードを獲得するなど、通常のイベントとは若干異なる体験ができるようになった。運営側はこの技術と得られる情報を用いて、観客の会場での密集度合などを管理し、安全なイベント運営を行う事が出来た。

参加者のトラフィックを管理することにより、以前は180分程度かかっていた入場待機時間を、平均30～45分へと大幅に短縮し、顧客の利便性の向上にも寄与した。



開場前



大型ステージ



大型ステージ（コンサート風景）



会場内



ミニステージ



ミニステージ（ステージ風景）

コ・フェスタ 2023 実施報告書

発行日：2024年3月
発行：特定非営利活動法人映像産業振興機構
デザイン監修：(株)OXCE
Printed in JAPAN
© VIPO2023

住所：東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル2F
電話：03-3543-7531
F A X：03-3543-7533
<https://www.cofesta.go.jp/>

※著作権者から文書による許諾を得ずに、無断で複写・複製することは禁じられています。

リサイクル適性 (A)
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。

R70
古紙パルプ配合率70%再生紙を使用